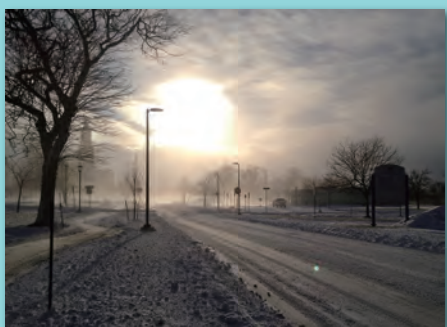


Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会会報 第395号

目 次

グラビア 会員往来

い な げ

巻 頭 言	1
新役員紹介	2～3
お知らせ	4～6
重点事業へのアプローチ	7～8
会 務	9～12
理事会のうごき	13～15
学 術	16～17
母校だより	18
支部のうごき	19～35
クラス会だより	36～41
OB 会・グループ・サークルだより	42
すいどうばし	43～44
庶務日誌	45
逝去会員	45～46
追 悼	46～47
投稿規定	48
へんしゅうこうき	49

表紙写真の説明

「厳冬の北アルプス」

日時：2014年1月7日撮影

場所：長野県大町市郊外

昭和39年卒 長野県中信支部 片倉 恵男先生 撮影

コメント：「前夜の冷え込み（零下13℃）による，放射冷却現象によって晴れ渡った北アルプスは，最も寒い時期を迎えています。」

「吹雪のあと」

日時：2014年1月7日撮影

場所：アメリカ，ニューヨーク州バッファロー

平成6年卒 本間 聖進先生 撮影

コメント：「2014年1月，北米大寒波による，－17℃の地吹雪の中の1コマ」

会 員 往 来

藤関雅嗣先生のご紹介

藤関雅嗣先生が歯科補綴学第Ⅲ講座（主任教授 関根 弘）に残られてからのおつき合いですから、かれこれ30年以上のおつき合いになります。在籍してからすぐにコーヌスクローネに取り組んで、自分で技工をすべて行うという努力家です。浅草で開業後、スタディー・グループ「救歯会」に入会してからは、更に実力を向上させて、欠損補綴の分野ではパーシャルデンチャーからブリッジ、更にインプラントまで幅広く研鑽を積んでこられ、今や第一人者になりました。「歯界展望」の1月号からパーシャルデンチャーの原稿が連載で掲載されています。あちこちのセミナー講師としても引っ張りだこです。同窓会の学術委員を長く務めて、今は学術委員長として卒後研修セミナーを主催して後輩の指導に励んでおります。スキーマ腕前は半端ではありません。当然指導員ですが、指導員の資格を認定できる指導員です。15年以上前に、50歳代の私は藤関先生のおかげで1級が取れました。高校生の時に1級の藤関先生と50歳代の私の1級は、その差は言うまでもありません。つい昨年、深雪を滑る藤関先生のカレンダーを頂きましたが、12枚とも華麗で見事な滑りで、まるでデモンストレーターです。明るくて分け隔てしない人付き合いは、多くの方から好かれています。

（昭和42年卒 千代田区開業 黒田昌彦）

「スキーも歯科医業も生涯現役でありたい」

藤 関 雅 嗣（昭和56年卒）

私は1956年東京で生まれました。雪国育ちでは無い訳ですが、4歳の時、父、母に連れられて新潟県赤倉観光ホテルに行ったのが、私のスキーとの関わりの始まりです。それからは正月春休みとスキーに連れて行ってもらうようになりました。小学3年生のとき、岩原スキー場でSAJ（全日本スキー連盟）公認スキー学校のバッジテストがあり、試しに受けてみると、君は3級合格。ということで、小3で3級を頂戴しました。何か賞を頂くと嬉しいもので、ますますスキー熱が高まります。中2のとき、赤倉スキー場で2級にチャレンジして合格。高1のとき志賀高原で1級に挑戦しました。結果は散々、3回トライしてすべて不合格です。おまけに最



1979年3月
第12回 デンタルスキー部門
妙高高原赤倉温泉 3位入賞



2004年
志賀高原 横手山スキー場

後のジャイアントコースの総合滑降で転倒して、右上1番の生活歯を破折してしまいました。歯冠が碎けて、歯髄が露出、寒い雪の上で凍みること、痛いこと。もしかしたらこの時の経験が歯科大を目指す動機になったのかもしれない

ん。1級はまだ無理かも、と思っていた高2のスキーシーズン始めの1月、八方尾根スキー場で検定があることを知り、受検し合格しました。これにはちょっとオマケがあります。検定終了後、君ちょっと、と声がかかりました。



1995年 赤倉観光ホテルスキー場 家族で



2013年 妙高高原 関温泉 深雪

主任検定員の丸山隆文さん（故人）でした。ちょっと一緒に滑らないかい！名木山ゲレンデの急斜面をリフト2本、後についておいで！その時のターンの捉えエッジングの早かったこと、ただただ哑然とするばかりでした。滑り終わると、「君、もっともっとトレーニングしなさい。特にターンの入りを大切に。結果は3時にスクールに見においで。」とってにっこり笑って去っていきました。いったいあれは何だったのだろう。駄目ってこと。不安と期待でドキドキ、昼食も喉を通りませんでした。今思うに検定終了後の滑りを評価してくれたのでしょうか。感謝です。おぼろげながら昨年の苦労は無駄ではなかった。検定は人を落とす為でなく、育てる為にある。と意識しました。

東京歯科大学に入学して入学式のその日に、スキー部に入部しました。スキー部での先輩後輩との出会いは、かけがえのない大切なものです。3年生までオールデンタルでは回転の途中までラップ、ゴールまであと少しのところポールを引っ掛けて転倒、棄権、といった具合でした。最後まで滑りきる。これを目標にキャプテン

として臨んだ4年生の赤倉でのデンタル、回転、大回転、滑降、の3種目で上位入賞して、個人総合3位となりました。東京歯科も学校対抗で3位となりました。5年生の尾瀬岩倉でのデンタルもフル出場、個人総合3位に入賞しました。我が校は、みごと優勝です。スキー部の仲間とともに喜び合いました。学生時代、一つのことに没頭しやり遂げる大切さを、実感しました。卒業後歯科補綴学第3講座に入局しました。2年目の冬、どうしてもやり残したことがあって、関根 弘教授にお願いして休暇をいただき、雫石でのデンタルOB戦に参戦しました。同世代の他校ライバル数人と対決するためです。スタート前、最後まで滑り抜くという現役の時の誓いがふと頭をよぎりました。この時のOB戦はかつての名選手が揃い大変盛りあがりました。結果はデンタルで初めて優勝できました。タイムも現役の上位タイムと同じでした。そのシーズン東京都スキー連盟加盟団体の社会人スキークラブである、リーゼンスキークラブに入会しました。その後、テクニカルプライズ、準指導員、指導員、A級公認検定員と資格を取

得して、東京都スキー連盟専門員、全日本スキー連盟スキー技術員（ブロック技術員）として現在まで22年間、指導員研修会ならびに準指導員養成講習会の講師、準指導員検定の検定員と携わってきました。スキー技術や指導方法を指導員の先生達に出来るだけ分かり易く伝える自分なりの工夫が、インプラントや、卒研、GCセミナーなどの講師をさせていただく際に大変役立っています。さらに多くの老若男女のスキーヤーとの出会いがあり、そこで教えていただいたこと、気づき、が人生の宝でもあります。今シーズンからリーゼンスキークラブの会長になりました。30名を超えるメンバーとともに、生涯スポーツとしてのスキーの楽しさを少しでも多くの人たちに伝えていこうと思っています。今年も2月に準指導員検定の検定員をします。1級合格の時に教えてもらったように、厳正公平、かつ滑り手の少しでも良いところを見つけて、ジャッジしようと思っています。ご紹介いただきました黒田昌彦先生も大切な恩師でありスキー仲間です。このような機会を与えていただき厚く御礼申し上げます。

千葉病院ロビーコンサート

昭和50年卒業 茂木悦子 記

本校4年生 棚瀬稔貴 写真

広報部 佐々木葉子 写真

最近、年中行事の商戦は年々早くなっています。たとえば町のクリスマス商戦は11月には始まっています。それにあやかるわけではありませんが、昨年の11月30日土曜日の午後、「ちょっと早めのクリスマスプレゼント」と称してロビーコンサートを開催しました。

千葉病院1階待合ロビーには100人以上のお客さまが集まりました。お客さま、とは患者さんや近隣の住民の方々です。

このロビーコンサートは千葉病院を利用してくださっている皆さんに、しばし憩いの時を提供しようと2012年から始まった病院サービスの一つです。



迎えた第4回は本学管弦楽団に演奏を依頼しました。日ごろ勉強で忙しい学生には11月末は試験等

の合間であり、クラブ活動としてベストタイミングでもありました。

さて、依頼された管弦楽団員にとって水道橋に移転してからの初めての外部への演奏活動となりました。移転後の練習を行うにあたって、練習場所がないという困難にぶつかったようですが、新館での練習を行う許可を得、またこの他に水道橋でのスタジオ練習といった新しい試みも行なうという逞しいところを見せました。合計10回以上になったという練習量に彼らの音楽に対する情熱を感じました(歯科医療に対してもその熱意は期待できますね)。

そしてもうひとつの工夫は彼らの広報活動です。年1回ですが講堂で開催していた管弦楽団定期演



奏会には楽しみにしているファンがたくさんいます。その人たちにアナウンスしたようで、演奏があることを知った多くの人がこのロビーコンサートに来てくれたのです。

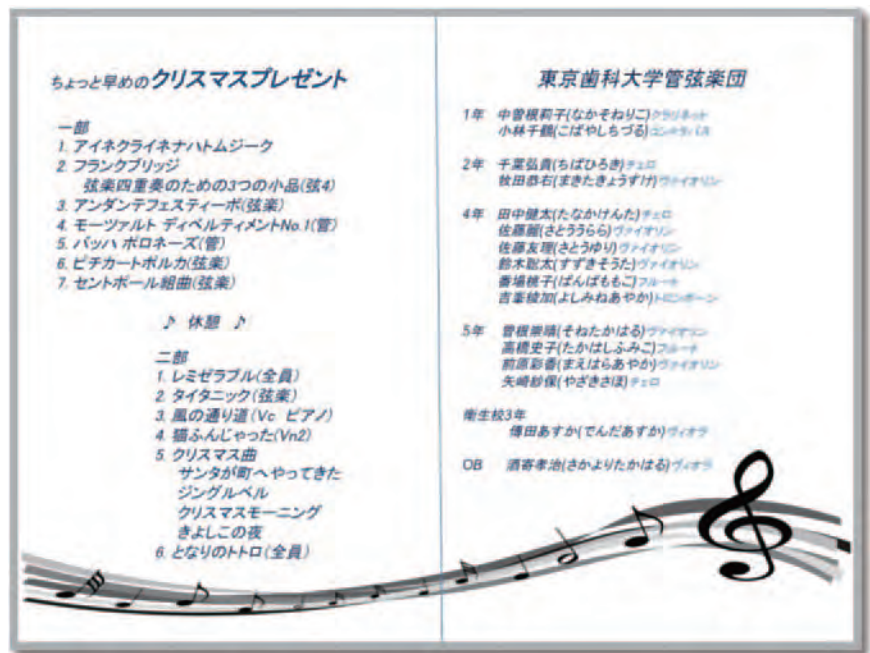
そして演奏会当日、楽しいクリスマス音楽が響きわたり、私たちスタッフも堪能しました。出口アンケートではほとんどの方から、また聞きたい、定期演奏会も続けてほしい、などの声が聞かれました。彼らは他にも介護施設等でミニコンサート開いており、東京歯科大学のイメージアップに学生たちが大きく貢献していることがよくわかりました。

演奏曲目の中にチェロとピアノのデュエットがありました。

このピアノを寄贈されたのは山崎博道先生（昭和45年卒）です。ロビーコンサートのたびに素晴らしい音色を奏でています。

このピアノとロビーコンサート1回から3回までのもようは次号でお話しします。

（以下次号に続く）



田中健太くん（本校4年）率いる本校管弦楽団々員とコンサートのスタッフ♪

新執行部の 重点課題について



会 長

矢 崎 秀 昭

本年1月より全国各地域からの新たな役員にご就任戴き、同窓会の新執行部が発足致しました。本年4月からの診療報酬の改定においても明らかな様に、歯科医療のおかれている状況は、長期にわたる国の財政赤字の影響も大きく、関係者の懸命な努力にもかかわらず、大変厳しいものがあります。また、全国の歯科大学におきましても、一時期の歯科医師需給の見通しの誤りと、予想出来ないほどの急速な少子社会の到来により、各大学間におきまして、大変厳しい競争状態となっています。

同窓会におきましても特に若手の会員の支部未入会が顕著となり、支部によっては会員の減少から、活動に支障を生じるほどの影響が出てきております。

執行部におきましては卒業時やさらに、在学中から歯科大学における同窓会の特別な意義を理解いただく努力をしております。さらに、最近では長期間にわたり勤務医として仕事を続ける傾向が強くなって

きております。そのような状況において、勤務地や居住地での同窓会の各支部加入への手続きなど、ご不明の場合は、是非、同窓会本部にご連絡いただければ、担当の役員等が詳細に説明し、さらに現状にあった対応をご説明申し上げます。

また、同窓会のホームページをご覧いただくと、同窓会についてのどのような質問でもお受けするメールボックスがありますので、気軽に相談戴くよう宜しくお願い申し上げます。学生の方も現在は同窓会の準会員として、正式な同窓会の会員となっておりますので、不明なことや、ご不自由に感じていることなど、是非ご相談ください。特に、パスワードなどなくても入れますし、さらに担当役員以外には問い合わせた方の情報などは、分からないようになっていきますので、ご気軽にご相談戴きますようお願い申し上げます。

このような状況を踏まえて新執行部の重点課題は以下ようになります。

1) 支部への加入促進とその具体的対応、2) 準会員（学生）、新進会員（卒業5年目まで）への同窓会への理解の促進、3) 若手ネットワークなどによる若手会員との連携、4) 大学との連携による学術等の事業の促進、5) 今後の母校への支援機構の構築、6) 名簿の作成などによる会員との連携の強化、7) 会費収入の確保と会務の合理化による財政基盤の強化、8) 会員への情報ネットの促進とホームページの充実、9) 日本歯科医師会、日歯連盟との連携の強化、支える会の構築、10) 他大学との学術事業等の交流の促進、11) 同窓会創設120周年記念事業の実施、12) 同窓会アカデミア構想による、学術や医療問題への取り組みと、歯科界における人材の育成、13) 大学、学生、父兄会、同窓会員とが一体となった東歯血脈イズムの継承

東歯120周年の歴史は、常に新たな知識と技術の習得、さらに高度な品格を身につけ、お互いに助け合い、高め合い、それにより人々の幸せに寄与する東歯血脈イズムそのものであります。今後さらに難しい局面にも十分対応できる人材の育成に軸足を置いた同窓会アカデミア構想より、東京歯科大学ならではの同窓会の実現を目指してゆきます。

東京歯科大学同窓会新役員紹介

(2014年1月1日～2015年12月31日)

会 長



矢崎 秀昭
昭和42年卒

副 会 長



宮地 建夫
昭和42年卒

副 会 長



浮地 文夫
昭和44年卒

副 会 長



玉井 達人
昭和47年卒

副 会 長



藤原 元幸
昭和50年卒

副 会 長



財部 正治
昭和52年卒

専務理事



高橋 義一
昭和48年卒

常任理事



河田 英司
昭和51年卒
事業推進部
アカデミア（生涯研修）

常任理事



蛸谷 剛文
昭和53年卒
事業推進部
アカデミア（人材育成）

常任理事



佐藤 亨
昭和54年卒
総務・厚生部
大学連携

常任理事



高野 博子
昭和55年卒
事業推進部
アカデミア（若手ネットワーク）

常任理事



臼井 文規
昭和55年卒
総務・厚生部*

常任理事



小池 修
昭和56年卒
広報部

常任理事



小林 慶太
昭和58年卒
事業推進部*
アカデミア（生涯研修）

常任理事



佐々木眞澄
昭和58年卒
渉外部

常任理事



寺田 仁志
昭和63年卒
総務・厚生部
情報管理

常任理事



福本 恵吾
平成2年卒
会計部

理 事



佐藤 英俊
昭和49年卒
北海道

理 事



椎木 一雄
昭和44年卒
東北

理 事



高原 正明
昭和52年卒
関東

理 事



早速 晴邦
昭和49年卒
東 京

理 事



阿部 高夫
昭和50年卒
信 越

理 事



山田 有
昭和46年卒
東 海

理 事



伊藤 透
昭和48年卒
北 陸

理 事



戸村 善明
昭和51年卒
近 畿

理 事



伊丹 義明
昭和46年卒
中 国

理 事



久保田 晃
昭和38年卒
四 国

理 事



田部 和彦
昭和43年卒
九 州

常任監事



梅村 長生
昭和49年卒

監 事



春山 良夫
昭和46年卒

監 事



矢島 安朝
昭和55年卒

一 顧 問



大山 萬夫
昭和25年卒

一 顧 問



鳴神 保雄
昭和30年卒

役職は、主な担当及び地域（※印は主任）

お 知 ら せ

理事会より

- 東京歯科大学同窓会本部事務所の移転について

2月末(27日予定)に大学の移転に伴い本館校舎南側の鶴屋ビル6階に移転します。スペースの拡大に伴い会員サロンも設置の予定です。

なお、住所・電話番号は変更ありません。

移転後も落ち着くまで何かと会員の皆様にはご迷惑をおかけするかもしれませんがご配慮のほどよろしくお願いいたします。

同窓会事業・行事

- 第42回全国ゴルフ大会

と き 平成26年9月15日(月・祝)

ところ おおむらさきゴルフ倶楽部(埼玉県)

- 平成26年度東京歯科大学同窓会評議員会

と き 平成26年11月2日(日)

ところ 如水会館 予定

- TDC 卒後研修セミナー2014プログラム

卒研セミナー

No.1 臨床実技セミナー「極めよう!! 外科小手術と顎顔面の解剖学」 4月20日(日)

No.2 ベーシックセミナー「初診時に求められる診査・診断のスキル」
～X線写真から始まる歯科診療のベーシック～ 5月18日(日)

No.3 臨床セミナー「診療の基本技術」
～日常臨床のHow to～ 6月22日(日)

No.4 臨床セミナー「どうして定期健診を受診してくれないの?」
～行動科学を知ろう～ 7月27日(日)

No.5 臨床セミナー「困った…! 義歯の悩み解消します」
～あんなこと, こんなこと…実際の症例を通して考えていきましょう～ 9月21日(日)

No.6 臨床実技セミナー「MTM新時代」
～歯科矯正用アンカースクリューの有効性を検証する～ 10月12日(日)

特別企画 インプラントセミナー –臨床から基礎へ, 基礎から臨床へ– 「Evidence-Based-Clinical Practice for Implant」
～科学的根拠をもったインプラント臨床を実践するために～
6月28日・29日(土・日)
7月26日・27日(土・日)

地域支部連合・支部関係

●地域支部連合会会長の交代

平成25年12月31日付

信越地域支部連合会	阿部 高夫 氏 (昭50卒)
前連合会長	阿部 晴弘 氏 (昭46卒)
北陸地域支部連合会	伊藤 透 氏 (昭48卒)
前連合会長	加藤 成俊 氏 (昭49卒)
中国地域支部連合会	伊丹 義明 氏 (昭46卒)
前連合会長	小徳 省三 氏 (昭49卒)

平成26年1月1日付

東北地域支部連合会	藤原 元幸 氏 (昭50卒)
前連合会長	齋藤 利明 氏 (昭45卒)
関東地域支部連合会	小鹿 典雄 氏 (昭49卒)
前連合会長	高原 正明 氏 (昭52卒)
東海地域支部連合会	西尾 有生 氏 (昭47卒)
前連合会長	成瀬 健 氏 (昭50卒)
近畿地域支部連合会	戸村 善明 氏 (昭51卒)
前連合会長	永田 賢司 氏 (昭48卒)
九州地域支部連合会	岩田 充了 氏 (昭52卒)
前連合会長	吉嶺 光 氏 (昭50卒)

●支部長交代

平成25年12月1日付

北見支部	松浦 信一 氏 (昭63卒)
前支部長	伊藤 正通 氏 (昭36卒)

平成25年12月31日付

横浜中央支部	今村 雅郎 氏 (昭56卒)
前支部長	池田 嘉徳 氏 (昭56卒)

静岡県支部	松下 茂 氏 (昭50卒)
前支部長	荻原 英生 氏 (昭48卒)

平成26年1月1日付

京橋支部	吉田 浩一 氏 (昭58卒)
前支部長	白井 文規 氏 (昭55卒)
品川支部	柴田 恭典 氏 (昭53卒)
前支部長	木下 優 氏 (昭52卒)
武蔵野支部	小宮山修邦 氏 (昭55卒)
前支部長	日高 敏郎 氏 (昭55卒)
町田支部	宮下 寿一 氏 (昭58卒)
前支部長	赤田 留吉 氏 (昭48卒)
横浜南部支部	鈴木 信治 氏 (昭56卒)
前支部長	玉井 達人 氏 (昭47卒)
神奈川相北支部	関戸 幹夫 氏 (昭47卒)
前支部長	高橋 捷治 氏 (昭41卒)
大学支部	佐藤 亨 氏 (昭54卒)
前支部長	高野 伸夫 氏 (昭51卒)
中信支部	中田 金一 氏 (昭44卒)
前支部長	上條 智生 氏 (昭43卒)
南信支部	鮎澤 潤 氏 (昭54卒)
前支部長	池田 守人 氏 (昭50卒)
愛媛県支部	松木 建二 氏 (昭52卒)
前支部長	横山 洋行 氏 (昭53卒)
熊本県支部	河野 生司 氏 (昭56卒)
前支部長	添島 正和 氏 (昭47卒)

母校関係行事・案内

●第119回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式

と き 平成26年3月15日 (土)

ところ 新館 血脇記念ホール

●平成26年度東京歯科大学入学式

と き 平成26年4月5日 (土)

ところ 新館 血脇記念ホール

●東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業式

と き 平成26年3月7日 (金)

ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂

●東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式

と き 平成26年4月4日 (金)

ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂

●平成26年度東京歯科大学学会

第297回例会 平成26年6月7日 (土) 水道橋校舎新館

演題締切 4月15日 (火) 正午

平成26年度 理事会・常任理事会，卒後研修セミナー，広報部広報委員会
年 間 開 催 日 程 表

理事会・常任理事会		TDC 卒後研修セミナー2014		広報部広報委員会	
開催日	区 分	開催日	研修内容	開催日	作業内容
1月18日(土)	第1回 理事会			1月10日(金)	2月号編集
2月22日(土)	第1回 常任理事会			2月14日(金)	年間企画
3月29日(土)	第2回 理事会			3月12日(水)	年間企画
4月23日(水)	第2回 常任理事会	4月20日(日)	卒研セミナー No.1 臨 床 実 技 セ ミ ナ ー	4月11日(金)	6月号企画
5月24日(土)	第3回 理事会	5月18日(日)	卒研セミナー No.2 ベ ー シ ャ ッ ク セ ミ ナ ー	5月12日(月)	6月号編集
6月25日(水)	第3回 常任理事会	6月22日(日)	卒研セミナー No.3 臨 床 セ ミ ナ ー	6月11日(水)	年間企画
		6月28日(土) 29日(日)	卒研セミナー 特別企画 インプラントセミナー		
7月23日(水)	第4回 常任理事会	7月26日(土) 27日(日)	卒研セミナー 特別企画 インプラントセミナー	7月11日(金)	年間企画
		7月27日(日)	卒研セミナー No.4 臨 床 セ ミ ナ ー		
8月30日(土)	第4回 理事会			8月20日(水)	10月号企画
9月20日(土)	第5回 理事会	9月21日(日)	卒研セミナー No.5 臨 床 セ ミ ナ ー	9月10日(水)	10月号編集
		10月12日(日)	卒研セミナー No.6 臨 床 実 技 セ ミ ナ ー	10月10日(金)	12月号企画
11月16日(土)	第6回 理事会			11月12日(水)	12月号編集
12月17日(水)	第5回 常任理事会			12月10日(水)	2月号企画
(理事会6回・常任理事会5回)				平成27年 1月14日(水)	2月号編集

重点事業へのアプローチ

若手会員との連携

－東京歯科大学拡大群馬県人会－

群馬県若手ネットワーク担当
黒田 由紀子

H25年12月28日（土）高崎駅に直結するホテルメトロポリタンホテル高崎に於いて群馬県同窓会は本部若手ネットワーク委員会後援 拡大群馬県人会を開催いたしました。この会は、若い先生方に支部同窓会を知り、積極的に参加をしてほしいという事を目的とした企画です。参加メンバーは県出身の東京歯科大学学生、東京・千葉在住の若い先生、県内在勤・在住の支部同窓会未入会の先生に支部同窓会員を加えて42名でした。

【第一部 講演会】

演題 「県内開業医から紹介を受けた患者の症例報告」

座長 高崎義人先生（昭和63年卒）

（独）国立病院機構高崎総合医療センター歯科口腔外科医長

演者 小杉謙介先生（平成18年卒）

群馬大学大学院医学系研究科顎口腔科学分野 助教・医局長

引田正宣先生（平成19年卒）

（独）国立病院機構高崎総合医療センター歯科口腔外科医員



高崎義人先生

小杉謙介先生からは口腔癌、顎口腔顔面再建手術含めた症例、群馬大学医局の紹介、卒業後研修医募集などを熱く講演して頂きました。また、引田正宣先生からは、交通事故による骨折後のインプラント埋入、線維性骨異形成症による顎堤の膨隆で、義歯スペース確保のための歯槽骨形成術の症例及び高崎総合医療センター歯科口腔外科の紹介をして頂きました。講演中、プロジェクターの不備というアクシデントが有りましたが、座長高崎義人先生の絶妙な機転で引田先生一人暮らしのアイテム「ストウブ鍋」での美味しいご飯の炊き方を楽しく語って頂きました。おかげで若い先生方の緊張もほぐれてアットホームな会になりました。また、両先生の講演を目を細めて聞いておられたお父様方の楽しそうな笑顔が印象的でした。

【第二部 懇親会】

県同窓会長 引田正俊先生の挨拶、県歯科医師会会長 村山利之先生の祝辞の後、前群馬県歯科医師会会長 川越文雄先生の乾杯で宴が始まり、そこで、本部若手ネットワーク委員会担当常任理事 高野博子先生からのメッセージをご披露させて頂きました。20歳～82歳というメンバーによる三世代の大宴会で、初めは緊張していた若い参加者も先輩方と話すうちに研修後の進路を見つける糸口をつかんだり、地元に戻った時の良き相談相手がみつける等々、思わぬ収穫もあった様子でした。メに定番の校歌斉唱！「今日は大変楽しかったよ」と先輩方からお褒めの言葉を頂き、参加者みんなが笑顔で年越しができる様な元気をもらえた会になりました。最後に、この拡大県人会を開催するにあたり協力をしていただいた皆様に感謝を申し上げご報告とさせていただきます。

群馬県拡大県人会に参加して

小杉謙介（平成18年卒）

私が群馬大学口腔外科で勤務を開始して3年が経ちます。赴任当初は不安と緊張でいっぱいでしたが、群馬県の優しい先輩方のご指導お陰で臨床面だけでなく様々な経験をさせていただきました。東京歯科大学の絆の強さや思いやりを強く実感致しました。そんな東京歯科大学群馬県支部OB会で講演を行えたことを誇りに、そして嬉しく思います。当日は、おいしい食事でお腹いっぱいに、諸先輩方の為になるお話で胸がいっぱいになりました。

私のつたない講演におつきあい頂いた諸先生方に感謝の意を述べたいと思います。



小杉謙介先生

引田正宣（平成19年卒）

最初に、この度の貴重な経験を与えて下さった同窓の先生方に感謝致します。発表時の不手際を助けて頂いた事や講演内容に関して色々な感想を頂けた事、先輩の真似出来ない話術、国家試験中にも関わらず手伝いを申し出てくれた後輩の存在等々、沢山の有難いものを得られて良かったと思います。これからも先達の先生方から現役学生まで幅の広い交流の場が益々発展していく事を望んでおります。



引田正宣先生

梅澤峻之（平成21年卒）

平成21年卒業の梅澤峻之と申します。現在私は東京在住ですが拡大同窓会ということで今回初めて参加させて頂きました。同窓会は現役の学生さんからベテランの先生方まで参加なさっており、群馬の歯科事情などをお伺いでき、私たち若手卒業生には大変有意義なものでありました。また、学生時代を過ごした大学同様に大変アットホームな雰囲気であり改めて東京歯科の結束の強さ、面倒見の良さを感じました。私のような群馬在住でない者も温かく迎えて下さいましたことに深く感謝致します。



若手の皆さん



会務アラカルト

第二期矢崎執行部スタート

矢崎執行部は平成24年度にはじまり平成26年より第二期目に入りました。一期目では前大山執行部から同窓会改革を引き継ぎ、経過措置が付きませんが評議員数の削減、情報ネットの拡大による全国会員の情報共有化の推進、準会員制度と新進会員制度のスタート、若手ネットワークの構築、総会の廃止、会長・監事の選挙規則の制定など色々なことに取り組んでまいりました。しかしながらまだまだ難題山積で、1月18日（土）開催の第1回理事会においては、冒頭挨拶で矢崎会長より「同窓会会務運営の基本方針」が示されました。これは今同窓会が抱える問題を目に見える形で改善するために如何にしていくかの具体的な戦略となるものです。

もっとも解決の難しい課題は、支部加入の推進そして若手同窓との連携強化であります。なかなか即効薬は見当りませんが、基本方針の上位に並べているように、将来の同窓会発展のためにも何とか解決しなければとする会長の強い意気込みを感じます。

重要課題としての支部加入の推進

表は平成10年と平成25年の支部加入者数を地域支部連合会単位にまとめたものです。全体では6,544人から5,669人と支部加入者は大きく減少し、支部加入者率でも

同窓会会務運営の基本方針

- 1、会員の支部加入の促進とその具体的対応
- 2、準会員（学生）、新進会員への同窓会への理解の促進
- 3、若手ネットワークなどによる若手会員との連携の強化
- 4、更なる大学との連携による学術事業などの促進
- 5、今後の母校への恒久的な支援活動機構の構築
- 6、会員との連携の強化と名簿の作成
- 7、会費収入の確保と合理化による財政基盤の強化
- 8、各会員への情報ネットワークの促進とホームページの充実
- 9、日歯、日歯連盟との連携強化、支える会の構築
- 10、他大学同窓会との学術等の交流の促進
- 11、120周年記念事業の実行と同窓会アカデミア構想による生涯研修、医療問題への取り組み、などに伴う人材の育成の具体的検討
- 12、大学、学生、父兄会、同窓会会員とが一体となった東歯血脈イズムの継承

78.1%から68.4%と10ポイント近く下がっています。

地域別に見ますと関東地域、東京地域や東海地域での減少が目立ちます。支部加入者率でもやはり関東地域と東京地域で10ポイント以上の減少があり、その結果50%

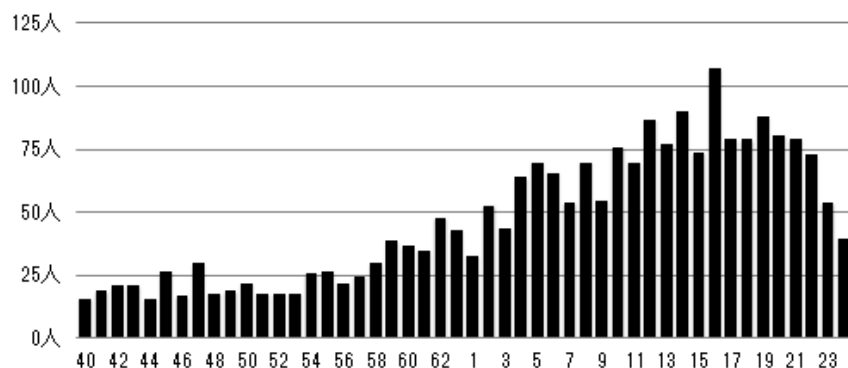
台の支部加入者率を示すなど事態は深刻であります。今までの委員会や評議員会での意見では、これらの地域には卒業後間もない同窓が多く、故郷に帰る前の勤務医の環境でつつい同窓会から遠ざかってしまうのだろうと言われて

平成10年 平成25年支部関連会員数比較

	平成10年 支部会員	平成25年 支部会員(増減)	15年間の加入者率の変化
北海道	272	224(-53)	85.3⇒85.9%
東北	409	341(-68)	88.1⇒85.9%
関東	1568	1463(-105)	69.0⇒55.0%
東京	1508	1255(-253)	67.7⇒57.0%
信越	364	283(-81)	92.2⇒80.6%
東海	678	539(-139)	84.4⇒80.0%
北陸	134	111(-23)	91.2⇒89.5%
近畿	262	182(-80)	86.2⇒75.5%
中国	325	319(-6)	90.8⇒90.9%
四国	134	132(-2)	91.2⇒88.6%
九州	312	257(-55)	86.2⇒80.8%
大学	578	568(-10)	100⇒100%
合計	6544	5669(-875)	
	78.1%	68.4%	

卒業学年別支部未加入者数

平成24年12月31日現在



います。また未就業の女性歯科医が同窓会から離れやすい環境にあることも指摘されています。昨年来、若手ネットワーク委員会では一人ひとり支部加入を勧める活動を広めています。そのみではなく、今後特別な制度を考えて勤務医や未就業の同窓が支部での同窓会活動に参加したり、同窓会費の納入に協力してくれるよう急ぎ進めていかなければならないと考えます。

一歩前進した準会員へのアプローチ

また一方の解決方法として若いうちから同窓会に親しみをもてるよう母校在校生や卒後間もない時期から同窓会と接する機会を増やせるようにと準会員制度と新進会員制度を昨年より始めました。図はどれだけ若い世代が支部から遠ざかっているかを示すものです。卒業年度別に支部への未加入者数を示しました。昭和50年代までの卒業学年では多くても25人ラインを前後していますが、その学年以降だんだんと増えています。平成10年以降で多くの卒業年度で75人の未加入ラインを超えています

し、ある学年では未加入者が100名を超えております。

一つの理由として、学生時代に同窓会と接することがほとんどなく、卒業するときに同窓会のオリエンテーションをうけますが、その後あまり同窓会と接することも少なく、ほとんど気にすることなく十年、二十年と経ってしまっているとのことがあげられています。そのようなことから、母校在学生にエレクトィブスタディの協力、大学祭や歯学体への援助などを行ってきましたが、実のところなかなか一人一人の若者たちに同窓会が近い位置で接する機会を作ることが難しかったのです。しかしこの度、大学の協力により1年

から4年生までの教室におじゃまして同窓会の案内をしながら同窓会報12月号を準会員に配布する機会を作ることができました。

1年生は英語の授業の時間の一部を、2年生と3年生はホームルームの時間の一部をもらい宮地副会長が、そして4年生は社会歯科学の講義の時間の一部を高橋専務が、10分から15分でしたが会長と学長の挨拶が載っているご案内と一緒に同窓会報12月号を配り、『HPをとおして若手ネットワークに是非アクセスを』と呼びかけました。同窓会報には準会員の記事や母校便りがあり、準会員である学生さんたちは「おっ」といいながら興味深く見入っていました。一歩前進して、次なるアプローチへの可能性が期待できそうです。

アカデミア構想実現のためにも必要な若い人とのつながり

さて、同窓会としての新しい方向性としてアカデミア構想を実現しようとしています。大学で最先端の歯科医学や技術を学び卒業します。卒業後、大学からバトンタッチして、学んだ医学や技術を





歯科医療として社会の中で活用していけるよう生涯研修を応援しようとするもので、アカデミアの環境で素晴らしい医療人になってもらえるようにとする構想です。生涯研修は、卒後早い時期での研修環境によって大きく左右されると言われています。卒後すぐに同窓会アカデミアのもと、先輩たちと一緒に歯科医としてスタートをきれるためには、在学時代から同窓会と密に接し同窓会の目指すものに強く共感してもらえることが大切と考えております。今後できるだけ多く若い世代と接点をつくり将来の同窓会の基盤づくりをしっかり進めていきます。

会員サロン、ただいま計画中

現在の同窓会室が鶴屋ビル6階に移動しますが、そこに会員サロンをつくる計画があります。いままで同窓会事務室は本館裏のいしづかビルの5階にありましたが、母校の西棟建設のため取り壊しになり移転することになりました。かねてより、同窓会員のためのスペースを確保できる広い場所を借りられるようお願いしてきましたが、このたびその願いがかない、大学の好意で鶴屋ビル6階のワンフロア、約100坪のスペースに移転する運びとなりました。そうです、同窓会室から同窓会フロアと

なるわけです。

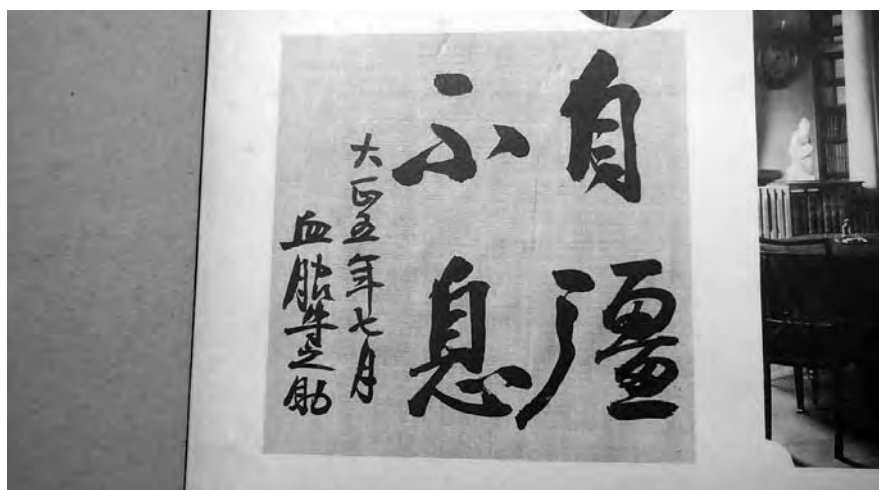
同窓会フロアの構成は会長室、会員サロン（事務スペースも含む）、会議スペースからなります。基本は会員が使える同窓会フロアづくりです。母校に来たとき、同窓会の資料を見たいとき、同窓同士でちょっと時間を使いたいとき、そんなときに利用できる会員サロンを目指しています。また会議スペースの使い方も幅広く使えるよう検討中です。今同窓会で実現を目指しているアカデミア構想は人材育成、生涯研修、会員交流の場としての機能を考えていますが、ひろい会議スペースをいろいろな用途に応じてフレキシブルに使えるスペース、いわばアカデミアスペースにでもなればと期待しています。皆さんにご案内できる日が一日も早いよう進めてまいります。

東京歯科醫学校の卒業アルバム

大正5年7月に卒業された山本眞一先生のお孫さんから当時の卒業アルバムを送っていただきました。表には東京歯科醫学校、第9回卒業記念とあります。母校百年史の年表によれば、東京歯科医学院から専門学校になり東京歯科医

学専門学校になったのが明治40年9月。その少し前の7月、東京歯科医学院内に夜間の東京歯科学講習所を開校しました。そして明治41年に講習所として第一回卒業証書授与式があり、明治43年、この講習所は東京歯科医学校と改称し、大正5年は第9回目の卒業となるのでしょうか、アルバムには当時の思い出が刻まれています。その時の校長は血脇守之助先生が兼任とあります。この学校は昭和3年に廃校になりましたが、卒業アルバムにある大正5年当時は三崎町に明治39年に落成した白亜の校舎で学んでいます。大正3年にレントゲン室、口腔外科手術室、研究科実習室を設けております。アルバムにもこれらの施設の写真が載っております。その他、このアルバムの中には、学校の前景、血脇先生の書、職員室、治療室、授業風景、職員や卒業生の写真と名簿がのっております。大変興味深いのは卒業生の名簿で、出身地をみますと北は北海道、南は熊本、長崎と全国各地から集まっています。50名ほどのリストですが、地域支部別に数えてみますと、一番多いのは関東地域21名、次が東海地域8名、そして信越地





域6名、九州地域6名とつづき、東京からは4名と以外に少ない数字で、交通の便が決してよくない時代に全国から志をもった若者たちが三崎町に集り学んだのがわかります。

血脇先生からの書には「自強不

息」(じきょうふそく)とあります。日付も大正5年7月とあるように卒業生に送る言葉であったのでしょう。自分自身から積極的につとめ、怠らないという意味で、血脇イズムである一生懸命やりなさいということばを卒業生に送っ

ています。

東京歯科医学専門学校校歌の楽譜の寄贈

明治42年卒業中島達也先生を父に持ち昭和13年に卒業された中島達郎先生のご遺品である校歌の手書きの楽譜をお嬢様からいただきました。誠にありがとうございます。

校歌の制定の歴史をひもといてみますと、大正11年に学校、同窓会、学生会が共同で校歌を公募しましたが、その話は下火になってしまいました。その後大正15年北原白秋氏に正式に校歌の作詞依頼をしましたが、そのままであったことから、昭和2年学生会委員会総会で校歌と校旗制定を熱望する声があがりました。そこで、全校の教職員、学生600人は、各自1枚ずつの作詞を促す葉書を北原白秋氏にしたためるなど熱心に働きかけたのでした。こうして、昭和2年(1927年)9月29日に作詞が、同年10月7日に山田耕作氏の作曲で完成しました。

なお、校歌を懐かしくお聞きたい方は同窓会HPから大学のHPにアクセスし、大学紹介、校歌のページを開けますと校歌の歌唱を聞くことができます。是非一度聞いてみてください。120年の歴史をしみじみ感じることができます。

資料提供ありがとうございます。同窓会創立120周年にむかって現在資料収集中です。これはと思うものがありましたら是非ご協力ください。



理事会のうごき

第7回理事会

平成25年12月21日（土）午後2時30分
於 特別会議室
出席 32名
議長 矢崎会長

会長挨拶

いよいよ任期最後の理事会となった。この2年間、皆様の協力に感謝申し上げます。大学のさいかち坂校舍竣工から始まり、水道橋への移転に関わる2年間であった。大学節目の時に会務に携われたことは良い経験となった。

執行部の大きな課題として大学支援、若手会員との連携を掲げてきた。大学支援についてはできうる協力ができたと考える。若手支援についても徐々にではあるが成果が目に見えてきている。ただ大学は今後2期工事事も始まることから、新たに支援策を検討することが必要になる。継続的に支援する方法を考えていかなければならない。

会費収入の減少から年間予算が9千万円台に落ちこんでいる。日本歯科医師会も会員の減少が続き経費削減を余儀なくされているが、同窓会としてはまず支部未加入者の減少を図る努力を進める必要がある。

次回の保険点数の改定では0.99%アップが決まった。歯科のアップ率が医科を上回ったのは関係議員の努力によるものと評価する。

各地域選出の理事各位には、各地域の活性化に努力されていることを実感している。同窓会は支部の活動により支えられていることを再認識している。今後とも各支部の活性化にさらにご尽力願いたい。

黙 祷

福島県支部・萩原昭男氏はじめ12名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

1) 平成25年11月17日から平成25年12月26日までの

日程を報告。

2) 各部報告

(1) 総務・厚生部：①地域支部連合会長交代について8件報告。②支部長交代について5件報告。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について5件報告。④逝去会員について規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤会費、共済負担金納入免除願いが1件提出され受理した旨の報告。⑥平成26年度高齢会員該当者について報告。⑦平成26年度共済負担金免除会員該当者について報告。⑧厚生委員会報告。⑨ゴルフ大会委員会報告。⑩母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑪情報ネットワーク推進会議報告。⑫会務検討特別委員会報告。⑬同窓会・会務運営協議会報告。⑭東日本大震災対策部会報告。⑮会員管理システム検討委員会報告。⑯同窓会創立120周年記念事業準備委員会報告。⑰アカデミア構想準備委員会報告。⑱同窓会事務局年末年始日程報告。

(2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について1件報告。②平成25年度11月末日現況報告について説明、報告。③評議員会・定時総会経費について報告。④事務職員冬季期末手当について報告。

(3) 渉外部：渉外部委員会報告。

(4) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。

(5) 事業推進部：①全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC 卒後研修セミナー2013について報告。④TDC 卒後研修セミナー2014について報告。⑤学術事業交流についての協議会報告。⑥保険委員会報告。⑦大学連携委員会報告。⑧シンクタンク委員会報告。⑨若手ネットワーク委員会報告。⑩大学連携・若手ネットワーク合同委員会報告。

以上の会務報告について、全て承認。

協議事項

(1) 平成25年度評議員会、第119回定時総会におい

て可決された項目について、今後所定の手続きをもって会則を変更し、次年度より議決どおりに運営していくことを確認、承認。経過措置は次期執行部に申し送りの提案があり、承認。

- (2) 東京歯科大学同窓会会員緊急時 代診制度について、現行形態での運営を一時中止し、運営細則は25年12月21日をもって廃止する旨の提案があり、協議の結果、承認。
- (3) 評議員会の決定事項を受けて、東京歯科大学同窓会施行細則の変更の提案があり、協議の結果、承認。

第1回理事会

平成26年1月18日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 31名

議長 矢崎会長

会長挨拶

執行部2期目に入り、以前から協力いただいている先生にも、新しく入られた先生にも感謝申し上げます。

大学の水道橋移転は順調に推移している。都心に帰ってきたメリットは大きいものとする。2期工事も始まるので、さらなる支援策を講じていきたい。同窓会が大学を支える構図を明確に打ち出していきたい。

支部会員の減少は、同窓会の最も大きな問題となっていて、それにより支部の活動が鈍ってきているところがある。支部入会促進対策を強化していきたい。特に若手に対する対策が必要である。また、準会員（学生）にも早いうちに対策を講じたい。

大学、同窓会、父兄会がうまく協力していけるように努力していくつもりである。

来年は同窓会創立120周年を迎える。これを機に血脇イズムをさらに浸透していくよう働きかけたい。

同窓会本部が近々、鶴屋ビルに移転となる。委員会等も開けるスペースがあり、活用していただきたい。これからの2年間、各位の活躍を期待する。

黙 祷

北多摩支部・松葉騰博氏はじめ5名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告ならびに承認

1) 平成25年12月26日から平成26年12月6日までの日程を報告。

2) 各部報告

- (1) 総務・厚生部：①地域支部連合会長交代について3件報告。②支部長交代について8件報告。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について8件報告。④逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤会費、共済負担金納入免除願いが2件提出され、受理した旨の報告。⑥平成26年度高齢会員該当者について報告。⑦平成26年度共済負担金免除会員該当者について報告。⑧平成25年度評議員会質問、要望事項について⑨平成25年度評議員会監事選出結果について報告。⑩平成26年度東京歯科大学同窓会事業計画について報告。⑪東京歯科大学同窓会会則および細則について説明、報告。⑫支部長必携について確認、報告。⑬罹災共済金額の決定基準について覚え書きの確認、報告。⑭東京歯科大学同窓会会員緊急時 代診制度について廃止したことを確認、報告。⑮母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑯東京歯科大学学年暦について確認、報告。⑰情報ネットワーク推進会議報告。
- (2) 会計部：①平成26年度東京歯科大学同窓会予算書の報告。②東京歯科大学同窓会旅費規程について報告。③高山・血脇記念同窓会基金規程資料を示し確認、報告。④東京歯科大学同窓会時局対策費積立金会計内規資料を示し確認、報告。⑤役員出張について確認、報告。⑥地域支部連合会学術講演会助成金の支出について報告。⑦支部地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について報告。⑧支部加入促進費の支出について報告。⑨平成25年度12月末現在現況報告。⑩東京歯科大学第119回卒業証書授与式祝金について報告。⑪会員動向について説明、報告。会員動向について、資料を示し説明。

- (3) 渉外部：報告事項なし。
 - (4) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。
 - (5) 事業推進部：①学術委員会報告。② TDC 卒後研修セミナー2014について報告。③学術事業交流についての協議会報告。
 - (6) 各部引継ぎ事項：資料を示すので，会務運営に当たり参考にしてもらいたい旨説明。
- 以上の会務報告について，全て承認。

協議事項

【報告事項前に協議】

- 1) 副会長の委嘱と職務分担並びに順位について承認。
- 2) 専務理事および常任理事の委嘱と職務分担並びに順位について承認。
- 3) 地域選出理事の職務について承認。
- 4) 顧問，参与の委嘱について承認。
- 5) 常任監事について承認。
- 6) 理事会，常任理事会の運営（座長）について承認。

【報告事項後に協議】

- 6) 理事会，常任理事会の運営（平成26年度の開催日程等）について承認。
- 7) 事業の推進と会務運営上の連携について重点事

業を進めるにあたっての各部の連携についての説明。承認。

- 8) 各種委員会委員の選出について協議の結果，会長一任。
- 9) 平成26年度評議員会について開催日を提案，協議の結果承認。
- 10) 常置委員会・全体委員会（仮称）開催を提案，協議の結果，承認。
- 11) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会の設置について協議の結果，承認。委員の人選は会長一任。
- 12) 東日本大震災対策部会の設置について，前執行部より継続設置の提案があり，承認。
- 13) 役員連絡会議の設置について，承認。
- 14) 前役員に対する記念品について，会長一任とすることを承認。
- 15) 「東歯関係日歯役員代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会」について，開催日時場所が提案され承認。
- 16) 移動理事会について協議の結果，会長一任。
- 17) 大学病院診療録指導委員会委員推薦依頼に対して，東京地域支部連合会および千葉県支部に人選を依頼し，その結果を踏まえて，大学に推薦をした旨の報告があり，承認。



理事会に先立ち井出学長よりご挨拶をいただいた



卒研レポート2013

実習セミナー CAD/CAM を極める

～初めてのオールセラミックス・支台歯形成の基本から合着まで～



今回の TDC 卒後研修セミナーは、学術としては初めて新館校舎で講義室と実習室を使い行われました。



はじめに佐藤 亨講師よりオールセラミックスについて、近年の接着精度の向上、それぞれの材料の特徴について講義がありました。



協和デンタルラボラトリーの木村健二講師には技工の立場より技工過程、歯冠形態設計の留意点などのお話がありました。



藤関雅嗣講師には臨床で実際 CAD/CAM を使用している立場より、適応症例留意点など講演いただきました。



午後は実習室に移り、模型にて、前歯臼歯の支台歯形成、ラミネートの形成から合着、CAD/CAM のスキャニング、コンピュータ上での設計、削り出しを自習しました。



スキャニングは動画として、色を塗り潰す感覚で容易に行える。



マージンの設定はある程度自動に設定され細かい所を修正する。



実習後、佐藤講師による合着に関する詳細な説明解説があり、3講師による質疑応答にて終了となりました。



(取材・広報部 島田 篤)

卒研レポート2013

イブニングセミナー
 今日からはじめるこだわりのペリオ
 ～歯根膜の臨床観察と歯周治療～



11月14日、平日の夕方にもかかわらず講義室後列も埋まるほど定員を超える大勢の受講生が集まりました。千葉英史講師より、1. 他の疾患との鑑別 2. 急性炎慢性炎 3. 動揺を読む 4. 歯周基本治療の可能性について長期の臨床症例を通してお話いただきました。

1. 他の疾患との鑑別 歯根膜が喪失しているのか、残っているのか。エンドペリオの鑑別にはプローブ、急性慢性、歯髓の状態、外傷性、X線の状態(巾着型、漏斗型)、年齢を考慮し判断する。特にポケットが深く急性で失活歯は判断が難しく慢性へ移行させ判断すると解説がありました。

2. 急性炎慢性炎について 18年にも及ぶ症例を通して急性炎では骨吸収像は一時的なものもあり再生する。千葉先生のレントゲン写真は18年前と現在が同じ規格、同じ濃度で比較が容易で素晴らしいもので

した。

3. 動揺を読む 力の大きさ、時間、方向、分布を診る。食物の質(硬軟)による歯根膜の質、なぜ動揺しているのか、病的なものは改善するために何をするのかのお話があり、動揺を水平的7段階垂直的5段階に分類し診断する。レントゲン像では、海綿骨の骨欠損はわからない。骨梁像から歯根膜の機能を診る。動揺を読むことで抜歯の判定(力の解放をして動揺の改善の有無)、骨縁下ポケット分岐部病変、補綴設計の範囲の決定などに応用する。

4. 歯周基本治療の可能性について 長期の臨床例を見せていただけました。

先生の講演を通して、歯根膜の「観察」にこだわる治療、症例にあった治療をするためにレントゲンの質の向上が大切なことを痛感しました。

(取材・広報部 島田 篤)



母 校 だ よ り

稀覯本の寄贈を受ける

平成25年10月26日(土)、静岡県浜松市在住の森 隆先生(昭和39年卒)から、J. Hunter 著「THE NATURAL HISTORY OF THE HUMAN TEETH」(「人の歯の博物学」1771年出版)が寄贈され、十二期会のクラス会席上で金子理事長に手渡された。

本書は、歯の構造・機能・形成・発育および疾患を科学的に分析した口腔解剖学書で、19世紀初期までヨーロッパ大陸での歯科医学の進歩に最も大きな影響を与えた。

森先生は1988年頃に翻訳を目的にこの原書を購入したが、翻訳途

中に都立駒込病院の高山直秀先生が翻訳・出版したため翻訳を断念された。なお、1987年にはJ. Woodforde著「The Strange Story of FALSE TEETH」(1968年出版)を翻訳し、「エピソードでつづる義歯の歴史」と題し出版されている。

寄贈いただいた原書は日本に数冊しかない稀覯本で、歯科医学の歴史を検証する上で大変貴重な資料であり、史料室で大切に保存し後世に伝えたい。

本学では同書を一冊所蔵しており、水道橋校舎新館3階のラウンジ・史料室に展示し供覧に付すと



ともに、大学ホームページで「大学のたから」として紹介している。

ご本人よりの投稿記事が43ページ、すいどうばしにあります。

矯正学教室創立100周年記念会開催のご案内

発起人代表 末石研二 山口秀晴 小坂 肇 茂木悦子

1914(大正3)年10月、榎本美彦先生が東京歯科医専の教授に就任し、付属医院補綴部の一区画に設置された矯正科にて、日本初の教育機関における歯科矯正治療が開始されました。以来、本年10月で丁度100年目を迎えます。この間、関東大震災、太平洋戦争、終戦、学制改革、日本矯正歯科学会の設立等大きな時代のうねりと共に歩んでまいりました。日本の矯正歯科界に本教室がどう関わって来たのかその足跡を辿ると共に、未来に向けてどのように関わっていくべきか考えていきたいと思ひます。多くの先生方にご出席賜わりたくご案内申し上げます。

記

矯正学教室創立100周年記念会

日 時：平成26年11月3日(日・祝)

講演会 13:00~17:00 水道橋校舎新館 血脇記念ホール(予定)

末石教授(基調講演)、山口(秀)前教授 他、Prof. G.Sameshima(南カ大矯正科)、パネルディスカッション等予定

記念パーティー 会場：パレスホテル(会費制)

受付18:30より 開宴19:00

問い合わせ先：東京歯科大学歯科矯正学講座

Tel 043-270-3966

Fax 043-270-3967

事務局長 茂木悦子

支部のうごき

東京地域支部連合会

平成25年度江東六地区 役員連絡協議会

平成25年10月23日(水)、東武ホテルレバント東京において役員連絡協議会が開催されました。江東6地区とは東京都下、墨田区、足立区、葛飾区、江戸川区、江東区の5地区に存在する墨田、足立、葛飾、江戸川、深川、城東の6支部の総称です。大浦好章深川支部長の開会の辞の後、当番地区の久保秀二城東支部長の挨拶が行わ

れました。各支部からの報告の後、協議事項にはいり

1. 各支部の問題点について
 2. 未入会者対策について
 3. 次回当番地区について
- 協議終了後、小池 修同窓会常任理事より「同窓会の現状と今後について」講演をいただき同窓会本部の現状、今後の活動について詳しくうかがえました。

講演終了後、次期当番地区佐藤浩一葛飾支部長の挨拶で閉会。記

念撮影の後、懇親会に移り鈴木雅幹城東副支部長の閉会の辞の後、小林俊春城東支部顧問の乾杯のあいさつにより宴が始まりました。総勢26名の先生方が支部を超え年齢を超えて楽しいひと時を過ごしました。最後に佐藤浩一葛飾支部長の閉会の辞で終了となり、各グループごとに散会しました。

(城東支部長 久保秀二 記)



城西ブロック懇親会報告

去る平成25年11月9日(土)、東京地域支部連合会城西ブロック懇親会が、原宿「南国酒家 迎賓館・鳳凰」において、総勢49名のご参加を得て開催されました。

今回は渋谷支部が主催として会の運営を進めました。まず、渋谷

支部副支部長 関川嘉昭先生の司会により第一部：講演会が開会しました。青木栄夫渋谷支部長の挨拶に始まり、講師としてお招きした東京歯科大学水道橋病院病院長である矢島安朝教授により「インプラント医療を通して歯科医療の未来を考える」と題した講演が行

われました。最近のマスコミ報道等で負のイメージをもたれてしまったインプラント治療の今後の展望について、より安心・安全なインプラント治療を目指し、インプラント治療による国民の健康増進を推し進めてゆきたい、という内容の大変貴重なお話をご講演い



いただきました。また、講演の冒頭では、水道橋新病院の校舎やシステムについての案内もご説明いただきました。後半は、先生の他界されたお父様の卒論と血脇守之助先生とのエピソードもお聞きしました。さらに、「現代に生きる私たち本学職員の前の壁は、歯科界のフロンティアたちの時代に比べればたいしたものではない。血脇イズムで育成された私たち後輩は、血脇フロンティアのDNAを引き継いでいるはずである。私たちは現代においても歯科界のフロンティアでなければいけない。」と力強いお話をしていただきました。

次に、第二部：懇親会が開かれました。懇親会は、講演会と隣接



する宴会場で、円卓を囲みながら行われました。渋谷支部長青木栄夫先生の挨拶に始まり、ご来賓の浮地文夫東京地域支部連合会会長、矢崎秀昭同窓会会長、高橋哲夫東京都歯科医師会会長からお話をいただきました。今回、渋谷支部の試みとして、円卓での座席を各支部、各年代の混合としました。それにより世代や地区の垣根を越えた楽しい懇談ができ、親睦を深めることが出来ました。会の

終盤には、城西ブロック各支部の出席者がそれぞれ壇に上がり、各支部の代表者により出席者全員の個性あふれる紹介が行われました。最後に次担当支部の杉並支部長中川杉生先生のご挨拶があり、渋谷支部副支部長杉田 健先生の閉会でお開きとなりました。お忙しい中たくさんの先生方にご参加いただきありがとうございます。渋谷支部一同、改めて感謝申し上げます。（齊藤義章 記）

信越地域支部連合会

信越地域支部連合会総会・長野県連合会総会

平成25年10月5日午後3時30分より信越地域支部総会、学術講演会、懇親会が長野県軽井沢町にある「グラウンドエキシブ軽井沢」にて開催されました。またそれに先立ち午後2時30分より長野県連合総会が同所にて行われました。本年度より東信支部の阿部高夫先生

が長野県連合会会長となりました。総会では、会務・会計・監査報告がなされ承認されました。

信越地域支部総会には来賓に井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会会長、高橋義一同窓会専務、阿部晴弘同窓会理事・信越地域支部連合会会長、そして学術講演の講師として東歯大評議員の千葉光行先生をお招きし、長野・新潟から52

名の同窓が参加いたしました。

総会は阿部晴弘信越地域支部連合会会長の開会の辞から始まり、同窓会からは矢崎秀昭同窓会会長と高橋義一同窓会専務理事より同窓会の現況報告、とくに若い同窓生の参加のお願いと新血脇記念ホール建設のための寄付金についての依頼・説明などがありました。次いで大学からは井出吉信学

長に水道橋新校舎移転の現況と今後の展開、歯科医師国家試験の合格率などの詳しいお話をいただきました。

物故会員6名への黙祷、続いて会計報告がなされ満場一致で承認されました。

記念学術講演には元市川市長でもありました千葉光行先生より「歯科と政治」と題した講演をしていただきました。今後の歯科界が地方行政とどのように関わっていくべきか、また昨年の12月より発足したNPO法人「口腔がん早期発見システム全国ネットワーク」の活動について詳しくお話をしていただきました。

その後全員での記念写真撮影を行い、午後6時30分より懇親会が開かれました。懇親会は終始和や



かに行われ、ジャズバンドによる演奏と素晴らしい歌声がいつそう会を盛り上げることとなりました。そして最後には全員での校歌斉唱で楽しかったひとときは締めくくられました。

翌日の10月6日には親睦ゴルフ大会が「グランディー軽井沢ゴルフクラブ」にて18名の参加で開催され、無事に全ての日程を終了いたしました。（小林秀樹 記）



九州地域支部連合会

平成25年度連絡協議会および総会

10月19日(土)午後6時から鹿児島市のホテル中原別荘にて開催されました。相次ぐ台風と年に千回爆発して大量の火山灰をまき散らす桜島に気を揉みながら当日を迎えました。恒例の九州歯科医学大会も午後2時より開催されて学長井出吉信先生が特別講演「食べる力は生き抜く力」と題して分り易く講演されて大好評でした。現在、鹿児島県歯科医師会では同窓の森原久樹会長、西孝一副会長が、鹿児島市では橋口哲彦会長が陣頭指揮されています。一強(鹿大歯)多弱の当県で同窓による三役揃い踏みは奇跡的な事です。5時受付開始の頃、恐れていた事態となりました。桜島が普段の倍増しの大爆発を起し、巨大な噴煙がホテルの上空に突進して来ます。正確に表現すると灰というより黒く焦げた砂塵です。加えて豆粒大の噴石まで降り注いで念の入った歓迎振りでした。これさえなければ

ば焼酎飲み放題の良い所なんです。6時総会開始。鹿児島県支部長の挨拶「新館竣工記念式典に下村博文文科大臣が出席され祝辞を述べられた事には驚いた。母校が国より期待されていると感じた」。続いて来賓のご挨拶。金子譲理事長「水道橋に全面移転して、また新しい東歯の歴史が始る」と力強く挨拶されました。井出吉信学長「マンモス総合大学ならいざ知らず、単科大学の祝辞に大臣がじきじきにお出ましになるとはと、官僚達も驚いている」と挨拶されました。矢崎秀昭同窓会長「若手同窓との連携を強めたい。若手の同窓会離れは深刻な問題である」と挨拶されました。

総会が終了、懇親会です。鹿児島の大手焼酎メーカー「若潮酒造」の取締役でもある内田信友先生が同社自慢の焼酎「樵：きこり」を両手にズシリと重く、贈呈して下さいました。樵のまろやかな飲み心地と久しぶりの再会で座

は一気に盛り上がり収拾がつかなくなりました。よろしければ昔話をとお願ひしていた宮崎の濱田康彦先生(昭27卒)と鹿児島の萩原朗先生(昭30卒)のお話もお流れとなりました。紙面を借りてお詫び致します。楽しい懇親会は早くも終了。夜景の綺麗なバーで二次会も中ごろ、20数校の同窓会表敬訪問を森原県歯会長と一緒に駆け足で終えた西副会長がやっと現われ「日大が盛り上がっていて、離してもらえなかった」とお疲れの様子でした。日歯の大久保満男会長も来鹿され大会で祝辞をされていたので盛り上がったのでしょうか。二次会も終了。遠路お疲れの蛸谷剛文理事をお宿へお送りしようとしたら「なにもう帰るの」と同期生の一団が夜の天文館へ連れ去って行きました。準備半年、慌ただしくも楽しい一日でした。(吉嶺 光 記)



神奈川県支部連合同窓会

平成25年度定時評議員会・総会・ 研修会・懇親会開催

12月1日(日)ローズホテル横浜において、平成25年度定時評議員会・定時総会・研修会ならびに懇親会が開催された。

評議員会は午後2時30分より杉山紀子会長の挨拶の後、議長に玉井達人評議員会会長、副議長に佐藤秀夫評議員会副会長が選出され、報告ならびに議事に入った。報告の中で本年度逝去された7名の会員のご冥福を祈り黙祷を捧げた。その後、新入会員、敬老祝賀会員の紹介が行われた。続いて議事に入り、上程された5議案について審議が行われ、採決の結果、全ての議案は賛成多数により可決承認された。

最後に、中島信也副会長の閉会の辞により終了した。

総会は、午後3時30分より開催された。高橋副会長の開会の辞の後、杉山会長の挨拶に続き、ご来賓の矢崎秀昭本部同窓会会長、金子 譲理事長よりご挨拶いただいた。

次に、佐藤評議員会副会長が議長、玉井評議員会会長が副議長として登壇し評議員会と同様、報告ならびに議事へと進んだ。諸報告の中で、島田英明会長指名委員長



より「次期会長には現会長の杉山紀子君（横浜西部支部）を指名する」との報告があり、杉山現会長の再選が推挙された。

諸議案の審議も順調に進み、すべての議案が賛成多数で可決承認された。

最後に、島村 大副会長の閉会の辞により総会は滞りなく終了した。

続いて研修会に移った。講師には、母校名誉教授で公益財団法人野口英世記念会会長の高添一郎先生に「野口英世の志と軌跡」と題してご講演いただいた。

高添先生は、野口先生の生い立ちから、恩師との巡り合い、そして数々の業績について明瞭な口調で「志」と「軌跡」について話された。関東大震災の直後に野口先生が寄贈した書「高雅学風徹千古」から読み取れる先生の学校に対する思いとその志は、未だに引き継がれ、増幅している。と述べられた。



最後に「『努力・忍耐・母性愛・人類愛』ほど野口先生を表すのにそれに優る言葉はない。今日ここにこのような立派な総会が開けることは素晴らしいことである。東京歯科大学の同窓である皆さんが野口先生の意志を引き継ぎ心をひとつにしてこれからの時代を開いて行って頂きたい」と結ばれた。

懇親会は午後6時30分より、矢崎同窓会会長、金子理事長をはじめ、神奈川県歯科医師会より高橋紀樹会長など多くのご来賓をお招きして開催された。昭和16年卒、今年で94歳を迎えられた本会相談役矢島敏夫先生の張りのある乾杯の発声で開宴し、途中で、敬老祝賀会員への記念品の贈呈や新入会員紹介などが行われ終始和やかな雰囲気の中、懇親の輪が広がった。

最後に、毎年恒例の全員で校歌を斉唱しお開きとなった。

(宇佐美貴弘 記)



茨城県支部

平成25年度 総会・学術講演会・懇親会の報告

日時：平成25年12月7日(土)

場所：ホテルグランド東雲

(茨城県つくば市)

平成25年12月7日(土)、つくば市ホテルグランド東雲において、2013年度茨城県支部総会、学術講演、懇親会が32名の同窓の先生の出席を得て開催されました。

総会では、高野一夫幹事長の司会のもと、大峰秀樹先生の開会の辞に続き、逝去会員3名(新井清先生、大貫英世先生、関本英雄先生)に黙祷を捧げました。

小鹿典雄支部長の挨拶に続き、来賓の同窓会常任理事の高野博子先生からは、会務報告がなされ、現在の同窓会の課題であるところの若い人の、同窓会離れの対策として、6月に「若手支援ネットワーク」が構築され、同窓会HP

のMail Boxを通じて、若手同窓との情報の伝達が成果を上げてきている事。及び新人セミナー、新進会員のつどい、同期会の開催支援、メーリングによる支部と本部との情報伝達の確立についてご説明いただきました。また、平成27年11月29日に開催予定の東京歯科大学同窓会120周年記念事業についてと移転寄付金募集延期の報告を受けました。

続いて、大学からの来賓の坂本輝雄先生からは、多数スライドを用いて、水道橋校舎の本館と新館及び二期計画の紹介がされました。また、平成26年度本校入試の概要及び第94回～第106回国家試験の結果発表、教員オンラインテストの実施等の説明を受けました。

新入会員紹介では、本年度は2名(盛 晋作先生、小竹芳和先生

平成17年卒)の紹介がされました。

大金 誠議長の下、各会務報告、監事報告がなされ、議事は滞りなく進行しました。

「平成26年度関東地域支部連合会総会の開催県として、拠出金の承認を求める件、準備実行委員会の発足」「会員の平均年齢の高齢に伴う会員共済規定の改正」「会員会則の改正」を含む6議案すべてが賛成多数で承認され、総会を無事終了しました。

学術講演会は、東京歯科大学歯科矯正学講座講師の坂本輝雄先生に「矯正歯科の現状と最新の話題」というテーマで講演をしていただきました。まず、一般開業医でも比較的取り入れやすい咬合誘導と限局矯正のお話から入っていただき、次に専門医に紹介を勧めるケースを、そして、クライマックスは坂本先生のご専門とされるところの顎変形症、口唇裂・口蓋裂、先天異常疾患を、また、最新の矯正治療のアンカースクリュー、仮骨延長術をたくさんのスライドにてご紹介いただき、人間の人生の質そのものまですっかり好転させてしまう最新の医学の業に、一同、驚愕と誇りの思いで大好評でした。

記念撮影の後、懇親会となり、美味しい御馳走と少々お酒も入り、うちとけた雰囲気交流を楽しみ、校歌を斉唱してお開きとなりました。(中島理子 記)



栃 木 県 支 部



平成25年度東京歯科大学同窓会栃木県支部総会の報告

平成25年度定時総会が平成25年12月1日に宇都宮市のホテルニューイタヤにて開催されました。

湯澤邦裕常任幹事の司会にて篠瀬 真副支部長の開会の言葉で開会しました。逝去会員への黙祷の後、菊地善郎支部長より栃木県支部の現況報告と挨拶をいただきました。その後来賓として東京歯科大学同窓会副会長浮地文夫先生より「同窓会の現状」、東京歯科大学学長井出吉信先生より「大学の状況」についてご報告とご挨拶を頂戴いたしました。小滝正人先生の議長にて、議事も順調に進

み、閉会となりました。

記念講演では黒田裕之常任幹事司会のもと、独立行政法人国立病院機構栃木医療センター歯科口腔外科部長内山公男先生による「口腔外科、臨床のヒント～皆様の質問、疑問におこたえます！」というお話を頂きました。先生は20年と長きにわたり栃木の中核病院に勤務され、同窓の先生方からの信頼も非常に厚い先生であります。今回は講演に先立ち同窓会会員より集めた質問・疑問に対してお答えいただく形式でしたが、先生の方で「口腔粘膜疾患の見方（特に口腔がんについて）」、「外来での口腔外科手技の実際」、「口腔外科における有病者歯科」、「次世

代の消毒薬」と大きく四つの題に分けていただき、分かりやすくお話していただきました。たっぷり2時間でしたがあっという間で、参加した先生方も翌日より即臨床に活かせる非常に有意義なご講演でした。

懇親会は本館8階の展望レストランに場所を移して行われました。牟田具城常任幹事の司会で、来賓の栃木県歯科医師会会長の柴田 勝先生よりご祝辞をいただき、落合雅雄先生の乾杯の音頭で宴は始まりました。そして和やかな雰囲気の中時は過ぎ、恒例の平成ゴスペロール隊先導による全員での東京歯科大学校歌斉唱にて終了となりました。（柏瀬昌史 記）



千葉県支部

学術講演会・定時総会開催

平成25年12月1日(日)千葉京成ホテルミラマーレにて、同窓約60名の参加のもと学術講演会、定時総会および懇親会が開催されました。

総会に先立ち行われた学術講演会では、大学より一戸達也副学長をお迎えして「事例に基づく全身偶発症の対応トレーニング」と題して講演頂きました。救急薬品の種類と適応、血管迷走神経反射の症状と治療、アナフィラキシーショックの症状と応急処置、狭心症発作・心筋梗塞の応急処置、高血圧症・虚血性心疾患患者の歯科治療時の注意点、低血糖発作の症状と治療、気管支喘息発作の治療、過換気症候群の症状と治療、誤飲と誤嚥、最高血圧と脈拍数の関係からみた生体の変化などについてこと細かく説明して頂きました。難しい内容一つ一つに対し最近の国家試験問題を用いた分かりやすい解説は、大変新鮮で好評でした。

総会は、まず北浦利明副会長による開会、高原正明会長から2年間の任期満了に当たり会務運営に種々ご理解ご協力を頂いたことに対する御礼を含めた挨拶がありました。次いで同窓会副会長である佐瀬俊之先生より、矢崎秀昭会長の再任、会長・監事の選挙規定の制定、未入会者対策と若手支援ネットワークの活動状況、寄付金の現況、平成27年予定の同窓会創



立120周年記念事業などの本部報告がありました。一戸達也副学長からは、2年連続して高い国家試験合格率を維持している学生たちの生活状況、入学試験の状況、今度の水道橋キャンパスの拡張計画などの大学の近況とトピックについてスライドを用いてお話し頂きました。

その後、議長に萩倉 純先生、副議長に小林 操先生が選出されスムーズな進行のもと例年と同様につつがなく議事進行いたしました。



た。今年度は2名の新入会があり、当日出席された浅野裕之先生に自己紹介して頂きました。役員改選に関しては、引き続き高原会長のもとくり越しということで満場一致で決定されました。

総会終了後の懇親会は、井上孝千葉病院長、片倉 朗市川総合病院歯科・口腔外科部長、白須賀貴樹衆議院議員にも参加を頂き、和やかな雰囲気の中一同おおいに盛り上がりました。

(河原俊朗 記)



千葉市水葉会

平成26年1月30日（木）、千葉市同窓会「水葉会」の総会および新年会が開催されました。総会は、法花堂 治会長（昭和58年卒）の開会挨拶の後、柴田幹事長（平成元年卒）より平成25年度会務報告、木屋和彦会計（昭和61年卒）より会計報告、松岡秀明監事（昭和52年卒）井上裕美子監事（昭和58年卒）より監査報告がなされました。議事では、平成26年度事業計画（案）、会計予算（案）が示され、役員改選では、法花堂会長の続投が賛成多数可決されまし

た。役員任期に関しては、任期を千葉市歯科医師会の同時期にすることで可決しました。次に、千葉県同窓会の市原支部の参加についての協議がなされました。水葉会では、2ヵ月に1度のペースで開催される例会を、様々な学術講演会として開催しており、勉強の場、情報交換の場として多くの同窓の先生に積極的に参加していただきたいと思いますので、他郡市支部の先生方も、是非ご参加いただきたい。ということで決定しました。

総会に引き続き、水戸律夫先生

（昭和46年卒）の乾杯のご発声により、新年会がおこなわれました。嬉しい事に、新しい年を迎え水葉会では、片山明彦先生（平成11年卒）阿部 智先生（平成12年卒）鶴岡守人先生（平成15年奥羽大卒）の3名の先生を新入会員として迎えることができ、新入会の先生を囲み、和やかな話と美味しい料理で楽しい時間を過ごしました。今後も是非もっともっと多くの方々に参加していただけるような企画を考え、懇親を深めたいと思います。（佐々木葉子 記）



法花堂会長



柴田幹事長



木屋会計



松岡・井上監事



水戸律夫先生



片山明彦先生



阿部 智先生



鶴岡守人先生

横浜南部支部



平成25年度総会・懇親会開催

平成25年12月14日(土)18時30分より、横浜市金沢区能見台の自家製洋食の店「山水」で平成25年度総会・懇親会が開催された。

総会は玉井達人支部長の挨拶に続き、来賓の杉之内俊郎神奈川県支部連合同窓会専務理事よりご挨拶を戴いた。次いで鈴木信治専務理事より庶務報告があり、敬老祝賀会員の浜野恭子先生に「喜寿の祝い」の記念品贈呈が行われた。続いて浅川 仁厚生担当理事、甲田正治会計担当理事からそれぞれ会務報告が行われた。その後議案に移り、平成25年度各種報告が滞りなく可決承認された。特に今回は、永年務められた玉井支部長



の任期満了に伴う次期支部長選出が行われ、現専務理事の鈴木先生が新支部長に推薦され、満場一致で承認された。

任期を2週間ほど残しているとはいえ、支部長の重責から開放された玉井先生の晴れ晴れとした笑顔がとても印象的であった。

総会后、横浜南部支部“毎度おなじみ”のミニ講演会が行われた。

今回は前年に引き続き、相談役の浜野文夫先生に「東京歯科大学123年の歴史、水道橋校舎の変遷」という演題でご講演いただいた。先生は高山紀齋先生、血脇守之助先生以来の母校の歴史本伝は勿論、ご自身籍を置かれた解剖学教



室のあゆみや本学と三崎神社との関係、広重の江戸名所百景に描かれた神田上水にかかる水道橋の歴史的・地理的考察など、まさに百花繚乱・ボリュームたっぷりの熱演をされた。さらに早くも来年度のミニ講演会に「三浦半島一周の旅」を次回予告され、「浜文」健在ぶりを大いに発揮された。

懇親会は金沢区在住のご縁で、快くご出席いただいた本部同窓会名誉会員の薬師寺 仁先生の乾杯のご発声で始まり、レストラン自慢の欧風料理を堪能した。それぞれ懇親を深めたところでちょうど時間となり、山下 誠副支部長の閉会の辞でお開きとなった。

(渡邊宇一 記)



横浜鶴見支部



鶴見東歯会忘年会開催

12月14日(土)午後7時より、鶴見市場大衆酒席「正木屋」において11名参加のもと鶴見東歯会忘年会が開催された。

ご多分に漏れず、開会前から生ビールで「前呑み」つまみもないのに熱気さえ感じる盛り上がり。定刻となり、佐藤秀夫会長が挨拶の後、吉田礎久先生の乾杯の発声で宴会が始まった。

今年で10回目となる「正木屋」での忘年会。「あん肝・烏賊の個

煮」の前菜からはじまり、鮮度抜群の「本鮪・真鯛・平目」のお刺身、なぜか無言になる「毛蟹」、鍋から溢れんばかりの具たくさん「牡蛎鍋」、揚げ具合が絶妙な「鱧の天ぶら」、風味豊かな「鰯の照り焼き」と続き、メの「いくらご飯」を平らげ、デザートは珍しい「ドラゴンフルーツ」を味わい、お酒も会話もさらに進んで1年間の憂さを晴らした。

途中で、毎年恒例の会員近況報告が行われ、幸せそうな笑顔で

「娘が結婚した」と報告する者、「息子が大学院に進みたいと言っている。お父さんはもっと頑張らねば」と苦笑しながらもうれしそうに報告する者などそれぞれが今年1年を振り返った。そして誰もが同様に「来年も健康でありたい」と結んだ。

最後に、森田正純先生の閉会の挨拶を以ってお開きとなった。

(宇佐美貴弘 記)



川 崎 支 部

水橋会会員家族懇親会

平成25年10月26日(土)、川崎水橋会会員家族懇親会が開催された。

今回は、開園30周年の東京ディズニーランドでディズニーハロウィーンを満喫し、会員制レストラン『club33』でフレンチのコースをお楽しみいただくというプレミアムなディナーパーティーを企画した。『club33』は、ディズニーパークのうち、カリフォルニアのディズニーランドと東京ディズニーランドにある会員制レストランで、唯一アルコールが提供されるレストランです。

台風26号、27号の影響が心配される中、参加者を乗せたバスは、武蔵溝ノ口、武蔵小杉、川崎を経由して東京ディズニーランドへ。出発する時には降っていた雨も上がり、午後3時から利用可能なスターライトパスポートを利用して



夕食まで自由にディズニーハロウィーンを楽しんだ。

その後、『club33』に40名の参加者が集合して、関 暁子副会長の開会と古賀克隆会長の挨拶の後、中島義和先生の乾杯の音頭で懇親会が始まった。途中、スタッフの方から『club33』について、ディズニーランドのテーマランドの1つニューオリンズスクエアにウォルト・ディズニーが客人を招待する目的で作られたレストランである。ウォルトの死後は、会員制の専用レストランとして運営された



という説明を伺った。『club33』の名前は、ニューオリンズスクエアでの番地が33番地であったことから名付けられたそう。

美味しいお料理とウォルトのおもてなしに大満足した後は、予定どおり行われたエレクトリカルパレードや花火を楽しんだ。その後バスは、川崎、武蔵小杉を経由して、武蔵溝ノ口で解散した。

最後に『club33』で会員家族懇親会を開催する為ご尽力くださいました先生方に心から感謝申し上げます。(大塩美樹子 記)





水橋会平成25年度総会 および講演会

平成25年12月7日(土)、川崎水橋会定時総会および講演会が芝浦の「牡丹」において開催されました。来賓として高橋神奈川県支部連合同窓会副会長をお迎えして、講演会は元東京都税務署長、岡本吉司氏より、「脱税とマルサ」というタイトルでご講演いただきました。

平尾専務理事の司会進行のもと、古賀会長の挨拶において、近年の支部会員数の大きな減少に対して、我々水橋会を含めた支部活



性化推進の必要性を強調されておりました。総会の議長には、荒木勝治先生が選出されて、25年度会計報告、決算報告、会計監査、事業計画、予算案等が報告され、承認をいただきました。そして、任期満了に伴う役員改正においては、出席者の満場一致の賛成にて古賀会長が推薦され、ご本人の承諾により、再任となりました。

その後、引き続いて行われた講演会は、関副会長と親しくされているというご縁により、国税庁税課長、国税査察官という輝かしいご経歴をお持ちである岡本氏によ



るものでした。国税庁における査察の方法、その時に使用した国税査察官手帳を提示していただき、具体的な査察の流れ、いわゆる、マルサの仕事の四段階について説明していただきました。一段階は好況の裏に脱税ありという目標の発見、二段階は調べていることを相手に絶対に知られてはならないという会社の内偵、期間として、2、3年をかけるケースもあるとのことでした。その後、全体像をつかんだ資料をもとにガサ入れをかけることが三段階、押収した資料を再構成、そして、検察庁への告発という流れになるとのことでした。地道な仕事の中で脱税を見つけていく粘り強さに、会員達も感心しきりの様子でした。

その後、懇親会は会場を移して行われました。中島善和先生の乾杯ご発声で始まり敬老、敬祝会員への表彰、2名の新入会員の紹介等、年代の垣根を越えた楽しい交流の場となりました。十数名の先生方は二次会にも参加され、校歌斉唱にて、終宴となりました。

(中田伸一 記)



神奈川相北支部



平成25年度総会

平成25年11月9日(土)、小田急ホテル相模大野にて相北支部総会が開催された。今回は、講演会の講師として、山崎浩史東海大学医学部口腔外科准教授(H7年卒)をお迎えした。

総会は、高橋捷治支部長の挨拶に始まり、続いて、先日、旭日双光章を受章され祝賀会が行われた河原武彦先生よりお礼の挨拶があった。総会に移り、議長には村山正之先生が選出された。その後、庶務報告が片野好正理事より、会計報告が小原重孝理事より、監査報告が高橋庸監事よりなされ、賛成多数で承認された。役員改選においては、新支部長として関戸幹夫先生が選出された。来賓挨拶では、杉山紀子神奈川県支部連合同窓会会長から、本部ならびに連合における今年の出来事等の話があった。



講演会は、“記憶に残る症例集”と題して、山崎講師より、臨床における、特に悪性腫瘍の臨床例についての説明があり、短い時間の中で密度の濃い、久しぶりに勉強したなあという思いの講演であった。



懇親会は、元支部長の渋谷利雄先生の乾杯で始まり、例年のごとく全員からスピーチをもらい、おいしい食事とお酒を満喫して、楽しいひとときを過ごした。

(新倉良一 記)



山 梨 県 支 部



平成25年12月14日(土)、甲府市内古名屋ホテルにて、東京歯科大学同窓会山梨県支部平成25年度定時総会が開催されました。34名の会員が出席し、井出吉信学長、浮地文夫同窓会副会長、記念講演講師として本県出身の有床義歯補綴学講座准教授の上田貴之先生をお迎えしました。

総会は、小林正仁副支部長の開会の辞に始まり、三木正夫支部長の挨拶の後、井出学長より水道橋新校舎について、浮地副会長より同窓会の現状について報告があり



ました。議事は村松久中議長のもと慎重かつ迅速に行なわれ、閉会の辞が末木 稔副支部長より述べられました。その後、上田准教授より「有床義歯の印象採得を再考しよう」という内容で記念講演があり(チキソトロピー)などはじ



めての言葉に驚きながら、会員一同講義を受けました。会場を移動し小倉 信先生の発声で乾杯し、甲州ワインを飲みながら懇親会が和やかな状態で進み、恒例のビンゴゲームなど楽しく行なわれました。(矢崎 篤 記)



静岡県支部

定時総会ならびに学術講演会

平成25年12月8日(日)にホテルアソシア静岡において、大学本部より井出吉信学長、佐藤 亨教授、同窓会本部より矢崎秀昭会長、太田昭二東海地域理事、日本歯科医師会の山下敏明代議員、島村 大参議院議員、白須賀貴樹衆議院議員を来賓にお迎えし静岡県支部平成25年度定時総会、学術講演会、懇親会が開催されました。

総会では荻原支部長の挨拶に始まり、井出学長より大学の水道橋移転後の状況、入試、国家試験の状況についてユーモアを交えたお話をいただきました。また矢崎同窓会長から、完成した血脇ホールへの引き続きの寄付の意義など、わかりやすくご説明をいただきま

した。島村議員と白須賀議員からは今後の歯科界のあり方について熱いご挨拶をいただきました。続いて、各担当役員から会務報告がなされた後、議事に移り各議案は可決されました。

学術講演では『オールセラミック修復の臨床』の演題にて佐藤教授よりセラミックスの分類、修復時の支台歯形態、破損しにくいジルコニアブリッジの設計の注意などについて限られた時間の中で有意義な講演をいただきました。

その後は会場を移し、来賓を含めた70名近い参加者にて盛大に懇親会が開催されました。最年長出席者の喜田正昭先生の乾杯の発声で宴が始まり、同窓の親睦を深めました。最後は荻原支部長を中心にした6名の応援エールに導かれ



白須賀議員を同期が囲んで

校歌を熱唱してお開きとなりました。

今回、大学で学生部長や静岡県人会長を努める佐藤教授のご提案により、総会前の時間を利用し平成卒業の先生方との懇談の時間を設けました。卒業生が地元に戻った時に同窓会に親しみを持ち、入会しやすくするために、大学での静岡県人会への静岡県支部よりの参加、支援などについて話し合われました。(板垣哲夫 記)



愛知県支部

平成25年度東京歯科大学 愛知県同窓会総会

平成25年12月8日(日)名鉄ニューグランドホテルにて平成25年度東京歯科大学愛知県同窓会総会が開催され、総会、記念講演、懇親会と盛大に行われました。

総会では来賓として大変お忙しいなか、学長である井出吉信先生に、また本部より同窓会副会長、梅村長生先生及び常任理事の財部正治先生をお迎えしました。成瀬健会長の挨拶では、東京歯科大学が千葉から水道橋に戻る歴史的な時にして、若手歯科医師の活躍を期待し、かつ、年配の先生方には代々受け継がれる血脈イズムの伝承の大切さをのべ、この120周年の歴史を今後とも継続して行くことは、我々同窓会の使命であると述べられた。続いて、学長の井出先生より、現在の在学生の愛知県同窓会の状況、水道橋移転や、今後の教授を決定して行く上で後継者育成もできるシステムづくりについて説明お話しされ、最後に2期工事のための寄付の依頼があった。本部同窓会からは梅村先生、財部先生より、会務、事業報告並びに平成27年11月29日に予定されている120周年記念行事について



の案内があった。

総会は、議長選出、収支現計報告や決算報告各部報告がなされ、議事、協議と、滞りなくすすめられ総会を終えました。

記念講演会は、「成長期の矯正治療とその問題点について」という演題にて昭和41年卒の名古屋で酒井矯正歯科クリニックをご開業の酒井 優先生に講演をしていただきました。48年の矯正治療経験から、矯正治療を成功させるためには安定した顎位の元に、顔立ち、歯、歯列、機能的咬合、歯周組織、顎関節、安定性などを考慮した検査、診断に基づいた治療を



進めることが重要であるとの経験に基づいた大変ためになりとても勉強になりました。

最後に毎回会員皆がとても楽しみにされている懇親会が同会場にて行われ、来賓として、愛知県歯科医師会副会長の須賀 均先生にいらしていただき、ご挨拶をいただき、和気あいあいとした会が催されました。今年一年の新規会員の紹介や教授就任の紹介挨拶があり、最後は、恒例の校歌斉唱を小関理事の指揮の下、熱唱にて終わりを迎え、少し世の中に活気が戻ってきたようにすら感じました。(井上敬介 記)



クラス会だより

クラス会開催日程

弥 生 会（昭和54年卒）

と き 平成26年 5月17日（土）午後12時30分集合
ところ 水道橋新校舎

い と し 会

昭和24年卒

平成25年いとし会総会を11月6日（水）戦前の姿に戻った東京ステーションホテル桐の間で行いました。幸いに無風快晴の秋日和に恵まれ、家族・関係者を含めて15名出席、約3時間の楽しい集いでした。平成24年末から25年10月末迄に5名の方が亡くなりました。広島島の池田君、鳥取の村松君、神奈川の佐藤（正）君、岐阜の加藤（正）君、静岡の長尾君です。先ずは御冥福をお祈りしました。幹事会計報告の後、熱田君より水道橋新校舎について図面をもって詳細説明があり、次いで懇親会となりました。卒業以来はじめての出席

の北海道在住遠藤雅夫君の乾杯の音頭（65年間の空白は彼の元気な一声で霧散しました）。神山五郎君は車椅子で出席。思ってもいなかったことでした。自著書を持参し出席者に下さいました。和服で宗匠頭巾、実はカッポレの名手という那須の鈴木和雄君、いつも変らぬ温顔と語りの函館の後藤次夫君、持参のカメラでスナップを沢山撮って下さいました。伊豆の山男小山田 修君、仙台の学究の徒杉本君、常連の和田君、杉浦君、杉山君、山田君、岡田君、このなかに今年は堀君夫妻、鈴木（義）君夫妻の顔が見えなかったのは淋し



く残念でした。思い出話は盡きることなく、ただただ楽しい刻が流れました。記憶がうすれて来ているのか必ずしも思い出が合致しないのも止むを得ないこと、かけがえのない大切なことはあの時、あの場所に共に居たという事実でしょう。実は準備の段階で熱田君からいとし会の終末について具体策を提案しようという話がありました。私もそのつもりでしたが、「又来年も会おうね」で解散してしまいました。帰りの電車の窓から見る夕日が綺麗でした。家内と「よかったね」と呟いてました。先の事は又考えてみましょう。

（齋藤 久 記）

写真左上から

齋藤夫人、山田英章、小山田修、杉山邦夫、鈴木和男、和田周志、杉浦 勲、岡田 勇、遠藤雅夫、後藤次夫、齋藤 久、杉本是孝、熱田俊之助



十 期 会

昭和37年卒



今回は富士山の麓、富士五湖で山梨県出身の金山君の協力を得て、平成25年10月19日(土)～20日(日)にホテルエクシブ山中湖で開催した。途中昼食は炉端を囲んで各自炭火で焼いて楽しんでいた。河口湖のオルゴール館に着いた時は富士山も顔を出し初冠雪の素晴らしい勇姿が見られ全員大感激、野に咲くコスモスも富士山を眺めていた。

折しも富士山が世界遺産になった事もあって観光地は外国人も多く大混雑、我々の気持ちも絶好調、日頃の行いが良かったのだと思います。私も山中湖に40年以上行きましたが初冠雪を見たのは初めてでした。この時と思い初冠雪

の富士山をカメラに収めた。又オルゴール館では世界中から集めた珍しいオルゴールを見学出来、その上多くの演奏を聴け、その中で偶然にもケセラセラを聞くことが出来、全員学生時代を思い出し話に花を咲かせていた。次に忍野八海へ、ここは富士山の伏流水が数十年地下を流れる水が池に出ている所である。40年前は忍野八海に訪れる人はなかったが、今は観光客で混雑していた。

ホテルに入ると各自車で参加した学友と合流、総会を開催、荻沼善也君、池田満之君のご冥福を祈って一同黙祷を捧げた。総会もスムーズに報告事項、会計報告も終了、来年からは各自で東京の総

会会場のホテルに集合して総会、懇親会をする事に決定。今年も北海道の山田君、九州の山崎君及び各地方の友人が多数参加(家族を含め36名)され長時間楽しい思い出話、現在の生活、健康状態、将来の計画と盛り沢山の歓談で夜遅くまで旧交を温めていた。

翌日は山中湖よりクニマスが生存していると言う事で一時話題になった西湖、精進湖、本栖湖ここでは樹海体験の為、森に入り幻想的な壮大な木々の姿及び火山岩の状態を見た。ここで記念写真を撮りその後小雨の中、白糸の滝を見学、岩から流れ出る水が白糸の様な美しい姿を見る事が出来た。

その後、沼津に行きゴルフ仲間と別れ第2東名を経由して一路東京へ。この間又楽しい時間を過ごすことが出来、来年の再会を誓って東京駅前で散会。

残念ながら今回出席できなかった人も次回は参加出来る様願っています。

来年も健康に留意してお元気にお過ごしください。

(山内英徳 記)

追伸

平成25年12月1日

皆葉壽樹君が亡くなりました。
ご冥福をお祈りいたします。



翔 蜻 会

昭和55年卒

去る11月3日土曜日午後5時より飯田橋ホテルメトロポリタンエドモントにおきまして、翔蜻会総会・懇親会が開催されました。総会に先立ちまして、新装になったTDCビル水道橋病院と本年新築された新校舎・血脇記念ホールの見学を行いました。今回は平成14年卒業の「リーベン会」に多大なるご協力をいただき、共催という形で滞りなく見学を行うことができました。リーベン会の先生方、特に口腔健康臨床科学講座の藤波弘州先生と、衣松先生には本当にお世話になりました。



【総 会】（参加者38名）

議長を高橋 庸先生にお願いし、庶務報告、会計・監査報告の後、東日本大震災に伴う御見舞金が野木先生に贈られました。次に



会長交代について村山前会長より説明があり、新会長が承認されました。

村山君30年間本当にご苦勞様でした。

【懇親会】

志賀泰昭先生の進行で矢島安朝教授の水道橋病院長就任に対する花束贈呈に始まり、出席番号順の「全員一言企画」で瞬く間に時間が経過しました。この中で伊藤

博之先生から生前の前岡先生について追悼の言葉があり一同正しく静聴いたしました。合掌

2次会も高野博子先生がホテル内に場所を確保してくれ、ほぼ全員参加で久々に深夜まで盛り上がった懇親会となりました。次回は遠方の先生が参加しやすいように同窓会創立120周年に便乗して開催しても良いかと考えております。（鈴木 勝 記）

水 真 会

昭和58年卒

2年に一度定期的に開催している水真会クラス会が平成25年10月5日(土)に執り行われました。まず、水道橋校舎13階第一教室にて同級生であり日本ヘルスケア歯科学会の代表を務めている杉山精一君に「ISDASを取り入れた新しいカリエスマネジメント」と題して講演していただきました。新しい「う蝕」の診査基準であるICDASとエックス線検査コードXR写真についての大変興味ある内容でした。

講演会終了後、水道橋校舎新館の見学を行いました。新・血協記念ホールや大教室、実習室、図書館を見学し、新しい施設に感激し

つつも何故か我々の学生時代を皆思い出していました。

総会と懇親会、そして古澤成博君の教授就任祝いの会を行うべく会場を伊賀屋（水道橋）へと移しました。総会では栗原由紀夫君が議長に任命され、2年毎の各種報告と議事議案の審議が行われました。今回は同級生から二人の教授就任という大変嬉しい報告がありました。一人目は日本大学歯学部口腔外科教室第一講座特任教授に平成24年4月1日付けで就任された外木守雄君で、二人目は東京歯科大学歯科保存学講座主任教授に平成25年4月1日付けで就任された古澤君です。会場となった伊賀

屋は同年2月16日に開催した外木君の教授就任祝いをを行った同じ場所です。今回名誉会員である、高添名誉教授、町田名誉教授、齋藤文明先生が出席してください、ご挨拶いただきました。

古澤君の教授就任にあたっての熱意にあふれた抱負を聞き、また参加者全員の近況報告に聞き入り、生まれ変わった水道橋校舎本館・新館とかつての市川進学課程、水道橋校舎、千葉校舎で過ごした学生時代を思い出しながら旧友と懇親を深めたひと時でした。

(大多和由美 記)



リーベン会

平成14年卒

クラス会開催

2013年11月3日に東京ドームホテルにて、リーベン会クラス会を行いました。本来ならば、2011年に開催予定でしたが、震災のため、延期しておりました。その後、同窓生からの希望が強かったことと、水道橋への大学移転を受け、その記念に開催いたしました。

おかげさまで持ちまして、参加人数は72名でした。また、会場内にキッズスペースを設けましたので、お子様も多数参加されています。

会では、学年主任、副主任の先生方からご挨拶を頂戴しました。また、今年度で退官される小田



豊教授、新しく歯科保存学の教授に就任した村松 敬教授に、学位論文のご指導を頂いた佐々木穂高先生、春山亜貴子先生より、記念の花束贈呈をさせていただきました。

会の最後には、校歌斉唱を行いました。本学の校歌は、かつて関東大震災に見舞われた際、その復興への願いが込められたものと聞



いています。当時の先輩方を見習って、日本の復興と、歯科の未来のために、この素晴らしい校歌を全員で歌いました。

次回リーベン会クラス会は、2018年に開催を予定しております。みなさん、また、笑顔でお目にかかりましょう！

(久保浩太郎 記)

写真が同窓会ホームページ《[http : //www. tdc-alumni. jp](http://www.tdc-alumni.jp)》に掲載されています。



貴 生 会

平成16年卒

平成25年12月8日(日)に東京ドームホテル、ペガサスルームにて、平成16年卒業生貴生会の総会、および懇親会が開催されました。

当日は、師走の忙しい時期にも関わらず、山口秀晴主任、末石研二副主任、矢島安朝副主任、橋本貞充副主任、古澤成博副主任と卒業後10年の節目もあってか、全国各地から卒業生58名と予想以上の出席者が集まりました。

菅原圭亮君、小山典明君の司会で、山口主任のご挨拶のあと、同窓会副会長宮地建夫先生より同窓会の現状と今後の展望に関してお話をいただきました。その後同窓会若手ネットワーク委員会岡村美恵子先生より同窓会の現状をお話いただき、同窓会の抱える問題、主に会費未納入についてお話しいただきました。平成卒になってからの納入率が非常に低いとのことで、貴生会としてもこの問題に取り組まなくてはいけないことを痛感しました。

2007年に同窓会を開催した際には貴生会会則がなかったため、今回総会という形をとり会則を取りまとめました。今回は準備期間も限られており学術講演などを企画できませんでしたが、次回以降は貴生会の目的である109期東京歯科大学卒業生相互の親睦をはかり、かつ各々の歯科医療に関わる技術の向上が可能になるような会を開催できればと思っております。

久しぶりの旧友との再会で、お



酒や会話も弾みました。卒業後10年ということで、開業組、勤務医組、大学や関連病院で中堅として残っている者、実家を手伝っている者等様々な形態で勤務しており、色々興味深い話も聞けました。また、結婚をして子供が複数いる者や、独身生活を謳歌している者など様々で、仕事面も、プライベートな面でも多くの興味深い話が聞けました。また新しい出会いも多少なりともあったかもしれません。

宴も進み、副主任の先生方からお話をいただきました。個人的に印象的だったのは、橋本先生の「流行っているレストランは味を変えていないようで、実は少しずつ味を進化させている。だからい



つ行っても美味しく思えるのだ」というお話でした。日々の診療がルーティーンワークになりがちな歯科で常に新しいことに興味を持ち、過去の文献を読み理解を深めることの重要性を再認識させられました。

話はつきることがなかったのですが、最後に次期貴生会会長(予定)の宮下英高君の挨拶により散会となりました。

次回は5年後の開催予定です。その際は学術講演も取り入れ、歯科医療の向上と言う貴生会の目的も達成できればと思います。

今回参加できなかった同級生には是非とも参加いただきたいと思います。(大井陽生 記)



OB 会・グループ・サークルだより

東京歯科大学硬式野球部創部90周年を迎えて

昨年11月上野精養軒にて、東京歯科大学硬式野球部創部90周年記念合わせて2013年第45回全日本歯科大学総合体育大会硬式野球部門優勝祝賀会を、OB・OG・現役部員・女子マネージャー含め、60余名の出席を得て盛大に執り行った(写真)。

1922年(大正11年)硬式野球部創部であるので、正確には昨年で91周年である。

1933年(昭和8年)東京歯科大学専門学校時代に、現在の市川総合病院(1992年4月新病院開設)の土地を購入整備し、その年の11月に市川グラウンドオープン、翌年1934年(昭和9年)同敷地内真間川沿いに野球場がオープンにこぎつけている。当時から医歯薬職はじめ、高等学校、他大学と対戦したりと、練習に試合にフルに使用されていたものと思われる。また旧後楽園球場も使用し、日本歯科大

学等との定期戦を行ったりと活発に活動していたようである。

戦時中は国の方針としてアメリカナイズされたものは一切排除され、野球場はイモ畑に、グラウンドの一角は学生に対する軍事教練の場として使用される事となった。

戦後イモ畑を野球場に整備し直し、進駐軍から譲り受けた縫い目のほずれかかった硬式野球ボールを修繕し使用したこと、グラブは守備・打撃ごとに使い回しだったこと等、先輩から当時の貴重な野球部の様子を90周年記念として文面で頂きましたことは感謝申し上げます。次第です。

春秋の歯科大学リーグ戦、大阪歯科大学硬式野球部との定期戦も戦後程なくして行われていたようである。1969年から全日本歯科大学総合体育大会(歯学体)が始まり、1972年(昭和47年)第3回歯学体で

硬式野球部門初優勝し、その後第3位が1977年(昭和52年)・1995年(平成7年)・2008年(平成20年)・2009年(平成21年)の4回、準優勝が2012年、そして41年ぶりに昨年優勝の栄冠を勝ち取った。

その間野球場が、当時の中久喜喬副学長(元硬式野球部部長)のご尽力により1991年(平成3年)に千葉市御殿町に新たに完成整備され、また2009年(平成21年)に硬式野球部OB会が大澤武雄新会長の元再発足し、OBと現役との顔の見える接触および石上恵一新野球部部長(スポーツ歯学教授)の現役への大学野球に対する心構えの指導が相まって、文武両道が地についてきているように思われる。

硬式野球部OB会は、創部100周年に向けて準備委員会を立ち上げ邁進している所である。

(昭和54年卒 小船邦夫 記)



John・Hunter 著「THE NATURAL HISTORY OF THE HUMAN TEETH」(1771刊)について

森 隆 (昭和39年卒)

東京歯科大学の大学紹介に「大学のたから」と称するコーナーがある。高山歯科医学院に始まった本学の歴史を知る史料室には、先人達の貴重な遺産である歴史的な貴重書、貴重史料が保管されている。そこに上記の書籍(1771年刊)が一冊保管されており、本邦には、数冊しか現存していません。

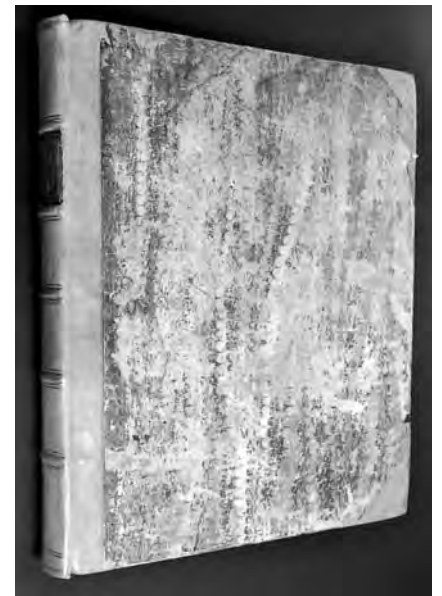
昭和62年(1987)日本橋の丸善本店で「古書・稀覯本(きこうぼん)即売市」が開催され、「国富論」(1777)を著した経済学者アダム・スミス(1723~1790)の蔵書が即売された折、本書が小生の蔵書となりました。本書をより多くの方の目に触れさせたいという思いで、このたび母校に寄贈することにした次第です。

著者ハンター(1728~1793)は、18世紀イギリスの解剖学者、外科医で、人体解剖の草分けであり、後年「近代外科学の父」と呼ばれるようになり、また小説「ドリトル先生」や「ジキル博士とハイド氏」のモデルとも言われ、とく話題性のある人物である。

特に彼を一躍有名にしたのが本書で、19世紀初期までイギリスのみならず、ヨーロッパの歯科医学の進歩に多大な影響を与え、当時の歯科医学に大変革をもたらした。これは歯科の分野における初の科学文献で、歯科の歴史に残る

最重要文献のひとつである。原著をひも解くと、230年前でありながら、これほどの見事な出来栄えの肉眼口腔解剖書に驚きを禁じ得ない。原題は、「人の歯の博物学」であるが、副題として、「歯の構造、機能、形成、発育およびその疾患の説明」とある。特に口腔解剖のスケッチは素晴らしく、図版として16枚の歯(乳歯、永久歯)、上下顎骨、頭頸部の筋肉の解剖図は、現代でも通用する正確さだ。一例をあげると、ハンター以前では、切歯、犬歯、臼歯の三つに分類されていた歯の種類に、小臼歯を加えて四種類とした。口腔解剖はハンターに始まったといわれている所以である。この書について興味のある方は、高山直秀氏の訳本を推薦する。

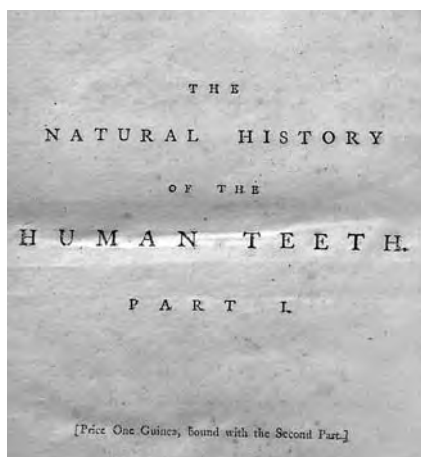
18世紀のイギリスで歯痛を患うことは、深刻なことであった。この当時人々は、砂糖をふんだんに使った食事を取り、サロンや応接間で甘い紅茶をたしなむのが習慣となっていた。そのため多くの人々が歯痛に悩まされることになった。効果的な治療法は殆どなく、瀉血(しゃけつ)、まじない、いかがわしい調合薬などがせいぜいの治療で、結局は拔牙することになった。当時、拔牙は激しい苦痛を伴う恐ろしい処置であった。おまけに内科医も外科医も、



拔牙は自分たちより地位の低い者の仕事だと見下していて、歯の治療のほとんどは、床屋、香具師、鍛冶屋などがやることになった。麻酔法のないこの時代の人々の歯痛に対する恐怖心は想像に難くない。(ちなみにホーレス・ウエルズにより麻酔法が発見されたのは、1844年である)

ハンターは、齲蝕にブラークが関与していることにも気づき、本書の中でも、毎日のブラッシングによってブラークを除去することを推奨している。

この時代のイギリスで歯の移植が一大ブームとなったのは、ハンターのこの書物が、移植の広まった大きな原因であった。拔牙後の欠損部への歯の移植は、外科医の領分内であると考え、彼自身個人



的に多くの歯の移植を引き受けたようだ。彼の治療は、貧乏人の健康な歯を抜歯して、そのまま金持ちの口腔に移植することだった。ハンターは、ドナーである貧しい子どもたちの歯を抜歯すると、すぐに客の口の欠損部に埋めこみ、絹糸か海草で隣在歯に結び付ける。その後で、口腔内を血だらけにして、半泣きをする子どもたちに数ペニーを握らせて帰すというもので、この辺の描写は、トマス・ローランドソンの風刺漫画に描かれている。(拙著 P104~105)

また外科医として、多くの屍体解剖経験から1785年に「側副血行路」が血流を確保するという、今

日でも通用する理論を唱え、下肢動脈瘤の患者を始め、多くの患者に福音を与えた。そして多くの時間と資金を比較解剖学にささげ、近代外科学の礎（いしずえ）を築いたのである。更にダーウインは1859年に「種の起源」を著したが、ハンターはそれより半世紀以上前に「種の起源」の内容に辿り着いていたという。

また一方、彼の住む屋敷は四階建てのタウンハウスで、正面は上流階級の人々が住み、優美なレスター・スクエアに面し、裏口はカースル・ストリートに通じていた。正面玄関からは上流階級の客人や患者が出入りするが、裏口からは夜ごと、墓場から非合法に集めてきた死体が届くようになっていた。(付言であるが、この当時義歯の人工歯は死人の歯が多く使われていた) スティーヴンソンが「ジキル博士とハイド氏」を著す際のヒントになり、善の顔と悪の顔を使い分けるジキル博士の屋敷は、ハンターの屋敷をモデルにしたものだといわれている。

またこの敷地内に私設の動物園

を有していて、ロフティングによる児童文学作品「ドリトル先生」のモデルとも言われている。

ハンターは歯科医学のみならず、性病、炎症、創傷、生理学、発生学、地質学など数多くの分野の研究を行い、同時に当時最も腕のいい革新的な外科医であり、ジョージ三世の特別外科医(1776)、軍医総監(1790)などに任命されている。

ハンターの患者には、ベンジャミン・フランクリン、パーキンソン病を発見したジェームズ・パーキンソン、経済学者のアダム・スミスは痔の手術を、時の首相、ウィリアム・ピットは頬の腫瘍を摘出してもらったそうだ。また教え子の一人に天然痘のワクチンを編み出して、多くの人の命を救ったエドワード・ジェンナーがいる。

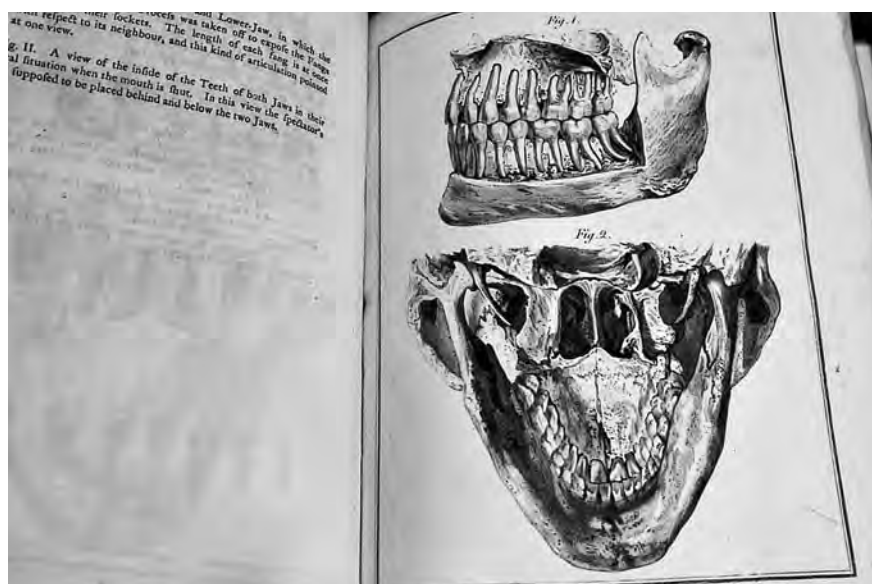
以上、J・ハンターの人となりを紹介したが、原著について興味のある方は、以下の書物が参考になると思う。

・「ハンター 人の歯の博物学」
John. Hunter 著 高山直秀訳
デンタルフォーラム社 1994. 11. 30
発行

・「解剖医ジョン・ハンターの数奇な生涯」
ウェンディ・ムーア著 矢野真千子訳
河出文庫 2013. 8. 10発行

18世紀の医療界にあって、ハンターは外科医学の開祖であると同時に、群を抜いた奇人であり、ハンターの人となりは分かり、こんなに面白い本は、ざらにはない。名訳で読みやすく、アマゾンで★★★★★である。一読を薦める。

・「エピソードでつづる義歯の歴史」
J. Woodforde 著 森 隆訳
口腔保健協会 1988. 11. 25発行(絶版)



庶務日誌

1 月

1) 理事会

1 月18日(土) 第1回理事会

2) 委員会

1 月6日(月) 会務運営打合せ会

8 日(水) 事業推進部卒後研修委員会

10日(金) 広報部広報委員会

16日(木) 事業推進部臨床セミナー委員会

22日(水) 事業推進部アカデミア生涯研修企画
会議

23日(木) 事業推進部臨床セミナー委員会

27日(月) 事業連携協議会

30日(木) 事業推進部卒後研修委員会

3) 出張

1 月7日(火) 千代田支部新年会 矢崎会長出席

16日(木) 浅草・下谷支部合同新年会
矢崎会長出席

17日(金) 芝支部総会 矢崎会長出席

18日(土) 東京地域支部連合会新年交歓会
矢崎会長出席

19日(日) 東京医科歯科大学歯科同窓会新年名
刺交換会 宮地副会長出席

25日(土) 杉並支部新年会 財部副会長出席

25日(土) 島根県支部総会 宮地副会長出席

26日(日) 島根県支部学術講演会 講師・外木
徳子先生(千葉県開業)

26日(日) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当
者連絡会準備会 加藤委員出席

2 月

1) 理事会

2 月22日(土) 第1回常任理事会

2) 委員会

2 月6日(木) 同窓会室移転に関する打合せ

7 日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会

17日(月) 会務運営協議会

18日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画
会議

21日(金) 事業推進部卒後研修委員会

22日(土) 常置委員会・全体委員会

27日(木) 事業推進部臨床セミナー委員会

3) 出張

2 月11日(火) 埼玉県支部新年会 玉井副会長出席

15日(土) 北多摩支部総会 財部副会長出席

16日(日) 三重県支部総会 臼井常任理事出席

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福を
お祈り申し上げます。(敬称略・届出順)

●昭 17.9 卒	大 倉 史 郎 (92歳)	長野県諏訪郡	25. 12. 3
●昭 31 卒	青 木 光 夫 (82歳)	千葉県野田市	25. 12. 2
●昭 36 卒	伊 藤 正 通 (76歳)	北海道北見市	25. 11. 21
●昭 32 卒	大 内 充 (80歳)	大阪府大阪市	25. 11. 20
●昭 37 卒	皆 葉 壽 樹 (77歳)	東京都品川区	25. 12. 1
●昭 16. 12 卒	甲 田 一 夫 (93歳)	東京都江戸川区	25. 12. 18
●昭 52 卒	佐々木 智 美 (61歳)	東京都武蔵野市	25. 12. 20
●昭 46 卒	松 葉 騰 博 (66歳)	東京都立川市	25. 12. 15

●昭 35 卒	菊 池 豊 (82歳)	東京都北区	25. 12. 28
●昭 36 卒	清 俊 和 (80歳)	静岡県富士宮市	25. 12. 27
●昭 32 卒	長谷部 史 朗 (81歳)	愛知県岡崎市	26. 1. 10
●推薦会員	種 田 ひさ子 (100歳)	大阪府大阪市	22. 2. 7
●推薦会員	並 木 三 郎 (93歳)	埼玉県秩父市	25. 12. 24
●昭 14 卒	小早川 博 (95歳)	東京都渋谷区	25. 12. 29
●昭 32 卒	山 本 達 雄 (82歳)	静岡県静岡市	26. 1. 18
●昭 33 卒	河 村 孝 昭 (80歳)	静岡県静岡市	26. 1. 20
●昭 37 卒	勝 田 英 和 (78歳)	東京都江東区	26. 1. 22
●昭 11 卒	古 川 勝 (99歳)	長崎県諫早市	26. 1. 27
●昭 27 卒	巢 山 保 (86歳)	北海道札幌市	26. 1. 14
●昭 44 卒	大 木 貞 雄 (70歳)	千葉県佐倉市	26. 1. 30
●昭 41 卒	小 川 敏 彦 (72歳)	岐阜県岐阜市	26. 2. 1
●昭 22 卒	渡 部 幸 男 (88歳)	愛媛県松山市	26. 1. 8
●昭 23 卒	塩 津 栄 一 (89歳)	東京都品川区	26. 2. 1

—— 故 菊池 豊 八紫会会長を想う —— 八紫会(昭和35年卒) ——



旧ろう12月29日。突然奥さん(菊池洋子さん)から拙宅に電話が入り、昨日28日に順天堂病院で亡くなったとのこと。菊池さんは4年前から透析に通っており、最近体調が思わしくないと電話で話してはいたが、やはりこの訃報には驚きと残念さでいっぱいであった。頂度、その日が彼の82才の誕生日で天に召されたことになった。思えば、昭和29年春(1954年)、今から60年前、ピンクの新しい校舎で予科の入学試験を受けた。私は丸坊主で詰襟の学生服、菊池さんは長髪背広姿で外国語はドイツ語で受験していた様であった。その時から、この人は社会人みたいな大人だと思兄貴だと思ったのが今迄ずっとその通り兄貴でいてくれた。だから最初から彼のことを菊池さんとさん付けで呼んでいた。菊池さんは当時

大変流行っていた胸を病い、4年遅れて東歯に入学された。でも無駄な闘病生活ではなく、絵を書く事や色々の勉強をされていて素晴らしい大人になっていた。

予科では3クラスに別れAクラスが平井教授、Bクラスが峰脇教授、Cクラスが山本教授で菊池さんはA、私はBと分かれていたが、当時各クラスから、クラス委員と総務委員を選んでいたが彼と私は総務委員で一緒に仕事をした。

総務委員会と云うのは学生自治会で、予科祭の運営から各部の予算配分等も仕切り大変忙しいポジションで、彼と私は常に相談する仲間であった。

二年後、水道橋の学部に行ったから、クラスは前半と後半の2つになり、彼は前半から総代で出て私は後半で総代となった、どちらかと云うと世話好きと云うことなのかも知れないが、卒業迄続き、結局彼とは6年間何やかやと仲良く

過した思い出は今も忘れる事が出来ない宝である。

菊池さんは私達より4才年上なので卒業後間もなく、東京芸大出の声学家の洋子さんと結婚され芸術家夫婦となられた。と云うのも彼の絵の才能は、ただのアマチュアではなく、家の近くに自分のアトリエを持ち、時々個展も開かれ、一陽会会員審査委員、日本芸術家連盟会員の画家であった。

奥さんの洋子さんは結婚後もオペラ歌手から武蔵野音大の教授を勤め、今も教え子を中心にグループ・メールの一門を率いる指導者であり、そんな縁で菊池さんも舞台美術部門で日本オペラ協会名誉会員等を歴任されておられた。

歌と云えば、菊池さんも低音(バス)で合唱部に属し、東歯合唱部出身のOBを家に集めて練習してコンサートを開いたりしていた。

こよなく予科時代を愛していた菊池さんは、Aクラス担任の平井教授と生涯付き合い、合唱にも引き

づり込み、近年、思い出の本を出版されている、題して「平井さんのこと」－ある一英語教師との交遊と追想－である。

最後にやはり歯科医であったので歯科界での活躍について触れると、母校同窓会では最初から若手代表的に本部の理事になり色々発言し、同窓会のホープの時代もあった。歯科医師会では当時登竜

門と云われていた社保審査委員（まったく柄にあっていなかった）を早々とやり、その後、日本歯科医師会の山崎執行部で学術担当の常務理事に起用され、語学力を生かし国際渉外的な後割で活躍し、FDI（国際歯科連盟）の日本代表の理事・特別参与も務められた。

兎に角、多才さを存分に発揮された人生ではあったが、ご本人は

まだまだやり残した事があったのではと思うと残念である。

ともあれ、生涯我々昭和35年卒八紫会の会長として、いや兄貴として同級生を良くリードして下さいました。

菊池さん本当にありがとう、安らかに！

（昭和35年卒・櫻井善忠 記）

—— 佐々木智美さんを偲んで —— 八十二期会(昭和52年卒) ——



智美ちゃん、貴方の追悼文を書く事になろうなどと、どうしても想像できたでしょう。平成25

年1月24日、貴方から思いもよらない検査結果の告白を受けました。あれから一年、よくがんばったね。

貴方は、優しい目元の鼻筋の通った美人。歌声は軽やかで口元にはいつも微笑みがありました。大学時代は合唱部でしたね。

平成24年秋に行った同期会『82期会 自分で自分の還暦を祝う会』では幹事として大活躍でした。遠く北海道や九州からも懐かしい多くの顔が集い、楽しく語り合い歌ったあの日。夢のような時間。次のクラス会からは貴方の歌声が聞こえないのだと思うと悲しい限りです。

思い起こせば昭和56年、佐々木高憲先生と御結婚。優しい御主人と立派な息子さん達に囲まれ、御苦労もそれは沢山ありましたが幸せな日々でした。佐々木歯科のオ

フィスでは人事や経理などで手腕を発揮していましたね。渋谷のオフィスを訪ねて感心したこと、それは受付窓口には佐々木家の家族写真が掲示してあったことです。御夫妻で学会に出席した時のツーショット写真、御家族揃っての御写真等々。もうこの頃から御家族は硬い絆で結ばれていたのだな、と今更ながらに思います。そう言えば元気な頃、佐々木夫妻はよく吉祥寺の街を散歩なさったものです。井の頭公園は散歩コースでした。春の桜、夏の緑、秋の紅葉。自宅療養の間にも二人の散歩は続いていたと貴方は言っていましたね。吉祥寺駅までの散歩、そして最後は一つ目の角を曲がった辺りまで歩くのがやっとだったそうですが、御主人に支えられ二人だけのペースで、ゆっくりと温かく歩いたのですね。

平成25年突然始まった闘病生活でした。入院、手術、退院。その後も入退院を繰り返し、最後のひと月は御自宅で最愛の御主人佐々木先生、外科医の御長男、同窓の御次男、そして妹で同窓の

秋草正美さんらが交替で、12月20日亡くなるその時まで、24時間持続の点滴を続けていたのです。御家族は在宅で看取ったのです。

貴方は如何に過酷でも決してじたばたしない、すべてを自然体で受け止めご家族と一つになって闘った…そしてまた、妹さんの献身的な姿があった…静かに目を閉じるとそれらすべてに感動すら覚えます。死がそこまで迫っているのに何と穏やかな家族。幸福に満ちた家族。

御家族と創ったかけがえのない幸せを胸いっぱいにして、貴方は旅立ったのです。82期会の皆が、貴方を良き先輩と慕う後輩達が、貴方を良き後輩と思って下さる先輩達が皆、涙しました。

そして今、涙は枯れて心にポツと新しい明かりが灯ります、私の心にあっては永遠に消えない温かな明かりが。

智美ちゃん、心よりありがとう。 合掌

（昭和52年卒・本田智子 記）

◆投 稿 規 定

※平成26年度より、偶数月発行から年間4回（2，6，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投 稿 様 式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投 稿 字 数

投稿欄	内容	文字数、備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想、詩、短歌、 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	— —	FAX 番号	— —	
投稿先 ☐ に✓印チェック	同窓会会報 ☐ カラーグラビア ☐ 追悼 ☐ 支部のうごき ☐ ふるさと自慢 ☐ すいどうばし ☐ いなげ ☐ クラス会だより ☐ OB, グループ・サークル			
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

◆へんしゅうこうき

- ★ 昨年は旅行をする機会にとっても恵まれました。海外も国内もほとんどが初めて訪れた場所で、楽しかったり、ちょっと不便だったり、いつもと違った非日常を味わいました。
- ★ ずっと以前から憧れていたバリ島に行った時は、テレビや雑誌で見るような素敵な風景が広がる一方、トイレは日本のように綺麗では決してなく、ホテルに戻るまで我慢してしまったり。
- ★ 国内では一泊や二泊のショートステイで温泉に行ったりしたのですが、日光に行った時、露天風呂に入り始めた途端に大粒の雨が降ってきて、あっという間に土砂降りになり慌ててタープを下ろしました。
- ★ 最近のハプニングといえば、今年の年明けに京都、大阪に初詣&グルメツアーをした時のことです。まず京都に入り人でごった返した清水寺や八坂神社などをお参りし、夜はなんの情報のないままふらっと入ったお店がすごく雰囲気もよく美味しくてかなりアタリでしたが、次の日の大阪への移動時です。ほんの少しの距離だけど、乗り物のなかでは一番好きと言っても過言ではない新幹線に乗ろうと改札に行くと何故か人で溢れかえっています。有楽町駅前で起きた火事の影響で、京都駅でも新幹線が全線動いていませんでした。おかげで京都駅で多くの時間を費やすことになり、結局、通勤のラッシュアワーのような在来線に乗ってやっと大阪に到着しました。
- ★ こういった様々な出来事は、その場ではついてないな、と思ったりもするのですが、もう二度と経験できない記憶に残る思い出になるものです。また、こういうことが旅行の醍醐味であり、いろんなことを感じて、考えて、成長していく部分もあるのかな、と思います。
- ★ 昨年発足したアカデミア構想準備委員会に一時的に出席しました。今までの学術的、技術的な成長だけでなく、人としての成長に携わることのできるようなセミナーや企画について話し合いがあり、そこでも旅行という案が出ました。地方で活躍している先生方の医院見学を兼ねる、というもので、実現したら面白いと思います。
- ★ 最近読んだ林 真理子さんの本でも、さまざまな国や地方へ旅行したり何かを観たりすることは、人としての魅力や人気を高めてくれる、とありました。
- ★ いろんなことに興味を持って、いろんなところに出掛けて行って、いろんなものを観たりして、いろんな人と会話のできる魅力ある人を目指そうと思います。

(小貫飛鳥 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
委員 山口 雅史
古澤 成博
佐々木 葉子
志村 圭子
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
宇佐美 貴弘
小貫 飛鳥
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成26年 2月20日 印刷

平成26年 2月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第395号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 小 池 修

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)